

# 第 1 章





# 第1 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練

## 1 訓練目的

- (1) 急速に普及したWeb会議システム（Zoom）を活用することで、県庁と被災地消防本部、関係機関との情報共有を同時に行い、共通認識が可能なか検証する。また、リエゾンの削減に繋がる効果が見込めるか訓練を通じて検証する。
- (2) 指揮支援隊が陸路進出となった場合は、被災地消防本部への到着に時間を要することから、車両での移動中であっても指揮支援本部内と同等の任務ができるよう、災害状況をイメージし易い情報提供方法を検証する。
- (3) Web会議システムを活用した消防広域応援の早期調整、応援出動前の情報共有等、今後の可能性について検証する。

## 2 訓練想定

令和3年9月末から長野県東部を震源とする震度1から3程度の地震活動が続き、10月10日13時現在で震度1以上となる地震を52回観測した。長野県東信地方と群馬県を跨ぐ浅間山での噴煙量及び火山性ガス（二酸化硫黄）の放出量に目立った変化はなく、噴火警戒レベル1を維持していた。

令和3年10月11日未明から長野県東部を震源とする震度3程度の地震活動が続き、7時30分、上田市付近を震源とする極浅発地震が発生し、震度6弱を観測した。地震による家屋の倒壊や土砂崩落が各地で発生し、被害は東北信地域に及んだ。

8時15分には浅間山において中規模な噴火が発生し、下山中の登山者が負傷した。地震と噴火が連続して発生し、甚大な被害が広域に拡大し、負傷者が多数発生した。

なお、指揮支援隊は降雨によってヘリコプターで迅速に被災地に赴くことができず、陸路での進出となり長時間を要する。

長野県災害対策本部では消防庁と協議し、Web会議システムを立ち上げ、関係機関との連絡体制を確保した。

## 3 訓練日時

令和3年10月11日（月） 8時30分から13時00分まで

## 4 訓練参加機関と視聴機関

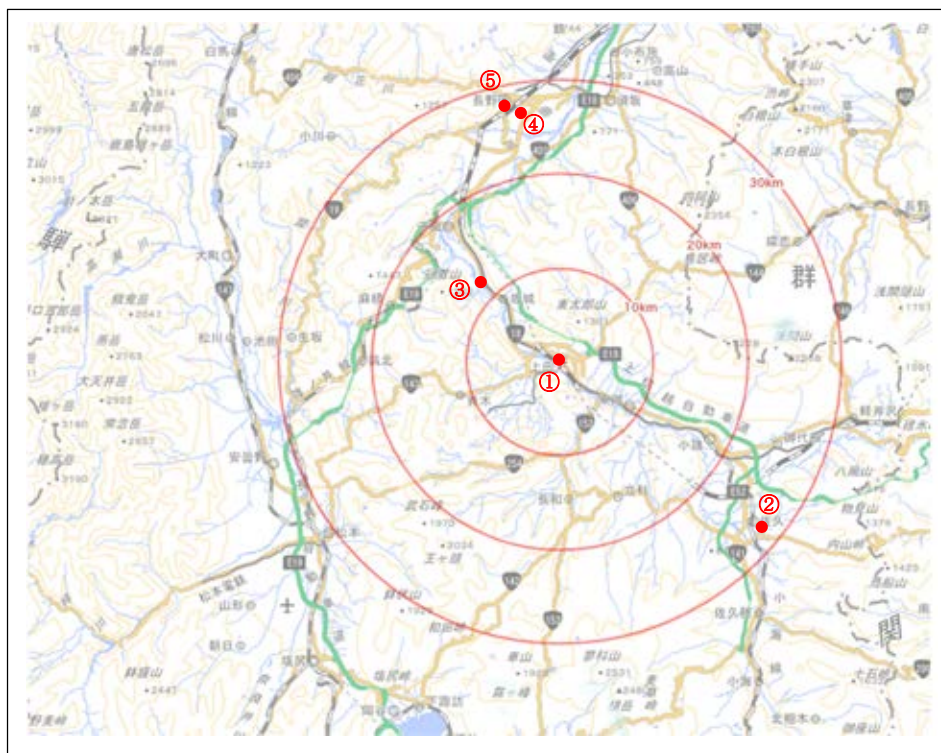
- (1) 訓練参加機関 10機関 61名

訓練参加機関	役割	訓練参加人数
総務省消防庁	総務省消防庁	2名
東京消防庁	統括指揮支援隊	4名
横浜市消防局	指揮支援隊（上田広域）	12名
さいたま市消防局	指揮支援隊（佐久広域）	7名
静岡市消防局	指揮支援隊（千曲坂城）	6名
長野市消防局	代表消防機関	6名
上田地域広域連合消防本部	被災地消防本部	3名
佐久広域連合消防本部	被災地消防本部	8名
千曲坂城消防本部	被災地消防本部	5名
長野県庁	県災害対策本部（調整本部）	8名

(2) 訓練視聴機関 28 機関

訓練視聴機関	機関数
総務省消防庁	1 機関
訓練検討員（千葉市消防局）	1 機関
県外都県関係部署	7 機関
県外消防本部	4 機関
県内消防本部	13 機関
長野県消防防災航空隊	1 機関
長野地方气象台	1 機関

(3) 長野県内実施機関位置図



5 訓練実施事項

(1) フェーズ0（訓練日までの事前準備）

- ア 事前に事務局より被災地消防本部に訓練シナリオを送付する。
- イ 被災地消防本部は訓練シナリオで示した想定を基に被害状況、部隊配置、意思決定事項等を準備し、被害状況を作成した訓練シナリオは事前に事務局に提出する。
- ウ 被災地消防本部の被害状況を入力した訓練シナリオをその他のプレイヤーに送付するので、訓練日までに部隊配置、意思決定事項等を検討する。

- (2) フェーズ1 (応援要請の検討～応援決定) ※訓練開始
- ア Zoom「メインルーム」を使用する。
  - イ 被災地消防本部は管内の被害状況、活動状況等をホワイトボード、地図等で取りまとめ、緊急消防援助隊の応援の要否を検討し、長野県災害対策本部に順次報告する。
  - ウ 代表消防機関は県消防相互応援隊の応援先市町村を報告する。
  - エ 長野県災害対策本部は被災地消防本部から被害状況等を収集し、消防庁に対して県内の被害状況の報告、緊急消防援助隊の応援要請を行う。
  - オ 応援要請を受けた消防庁は出動の求め又は指示を行い、その旨を長野県災害対策本部等に通知する。
- (3) フェーズ2 (緊援隊出動～応援先被災地の決定)
- ア Zoom「メインルーム」を使用する。
  - イ 応援都県からの出動隊数報告を受けた消防庁は、消防応援活動調整本部等に対して緊急消防援助隊が出動した旨を通知する。
  - ウ 統括指揮支援隊と消防応援活動調整本部は応援先市町村を検討する。
- (4) フェーズ3 (部隊配置場所の検討、受援体制報告)
- ア Zoom「メインルーム」及び各機関に割り振った「ブレイクアウトルーム」を使用する。
  - イ 各ブレイクアウトルームで被災地消防本部と指揮支援隊が協議し、被害状況の報告、緊急消防援助隊の配置場所及び受援体制を協議する。  
必要に応じ調整本部及び統括指揮支援隊等も各ブレイクアウトルームに入り協議を行う。
  - ウ 協議終了後はメインルームに戻り、受援体制の決定事項を報告する。 ※訓練終了
- (5) 検証会
- 各機関で討議した後、被災地消防本部 (上田・佐久・千曲坂城)、代表消防機関、調整本部、指揮支援隊、統括指揮支援隊、訓練検討員、消防庁の順番で発表した。

## 6 検証重点事項

- (1) 指揮支援隊が状況を把握できる情報提供内容の確認
- (2) Web会議システムで確認が容易なホワイトボード記載内容と地図作成及び撮影手法の確認
- (3) 指揮支援隊として必要な情報が引き出せるか確認
- (4) 参加者全員が情報を把握できるか確認
- (5) Zoomの各種機能の有効性の確認

7 訓練進行結果

Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練 訓練進行結果

○実施日時 令和3年10月11日(月) 8:30~13:00

進行時間	訓練統制 主なイベント	フェーズ シナリオ説明	様式等の授受	上田地域広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部		佐久広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部			
				上田地域広域連合消防本部		横浜市消防局/指揮支援隊	佐久広域連合消防本部		さいたま市消防局/指揮支援隊
				状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容
★フェーズ0 災害発生～緊急消防援助隊 応援要請までの各機関の災害対応 (訓練実施前に行った状況予測内容)									
7:30	7:30 ●長野県東信地方 千曲市坂城町 地震(本震)発生 (最大震度6弱) ※迅速出動 該当都県 出動準備開始		7:30 ○消防庁 →迅速出動該当都県 「応援都道府県判定表」送信 №a0-1-1	7:35 ○上田東北消防署 庁舎南面の壁に亀裂多数 南側駐車場陥没 断水・停電 ○本部庁舎と広域各署停電(各 庁舎自家発電対応中) 各車両異常なし	○被災地消防本部 ・本部、各署の人員、車両、庁 舎の被害確認 ・管内の被害状況収集(時間、 場所、規模、出動隊) ・職員招集(本部・各署) ・各インフラ(ライフライン、 交通、通信)の状況把握 ・関係機関(市町村、自衛隊、 警察、医療)と情報共有 ・情報伝達方法、連絡先を確認 ・災害即報 ・長野県消防相互応援要請 ・通信指令室の補助 ・管内病院受入確認	○119番通報多数入電 7:35 ①佐久市岩村田 建物火災 →指揮隊1、救急隊1、消火隊 4	○被災地消防本部 ・難防本部設置7:30 ・本部、各署の人員、車両、庁 舎の被害確認 ・管内の被害状況収集(時間、 場所、規模、出動隊) ・職員招集(本部・各署) ・各インフラ(ライフライン、 交通、通信)の状況把握 ・関係機関(市町村、自衛隊、 警察、医療)と情報共有 ・情報伝達方法、連絡先を確認 ・災害即報 ・長野県消防相互応援要請		
7:40			7:45 ①上田市国分 建物火災 →救急隊1、消火隊4						
7:50			○被災地消防本部 →消防庁、県庁 「火災・災害即報」送信 上田広域 8:00 佐久広域 7:50 火山噴火 8:35 千曲広域 7:50 №a0-2-1	7:50 ②東御市海野宿 建物火災 →救急隊1、消火隊4 7:52 ③上田市常入 土砂崩落 →未対応 7:55 ④上田市野竹 トンネル崩落 →未対応 8:00 ⑤上田木材町 土砂崩落 →未対応			7:50 ○火災・災害即報 作成・県及び消防庁へ報告(火 災) ※火災・災害即報 第4号様式		
8:00	8:00 ※迅速出動該当都道府県へ出 動可能隊数報告及び出動準備 依頼	○消防庁が迅速出動該当都道 府県へ「出動可能隊数報告及び 出動準備依頼」を送付 ○消防庁→応援都県 「出動可能隊数報告及び出動 準備依頼」要請要綱別記様式 2-1 ※本訓練省略	8:10 ①上田市国分 建物火災 →消火隊2隊増隊 8:12 ②東御市海野宿 建物火災 →消火隊2隊増隊 8:15 ③上田市常入 土砂崩落 →偵察隊1 8:17 ④上田市野竹 トンネル崩落 →偵察隊1 8:19 ⑤上田木材町 土砂崩落 →救助隊1	8:00 ○火災・災害即報 作成・県及び消防庁へ 報告 ※火災・災害即報 第4号様式	8:00 ①佐久市岩村田 建物火災、住 宅密集地のため延焼拡大 →第2出動を検討				
8:10	8:15 ●浅間山噴火 中規模噴火 (噴火警戒レベル3)		○被災地消防本部 →代表消防機関 「県消防相互応援隊の応援要 請書」様式第1号 送信 上田広域 8:30 佐久広域 8:50 千曲広域 8:25 №a0-3-1	8:15 ○県消防相互応援隊の要請検討 ・消防本部対策会議で県相互の 要請検討→決定(全県応援) ・県、代表消防本部への情報提 供	8:15 ●浅間山噴火 中規模噴火 (噴火警戒レベル3)	8:15 ○県消防相互応援隊の要請検討			
8:20					8:20 ②浅間山 噴火災害 →指揮隊1、救助隊1、救急隊 1、消火隊1				
8:30				8:30 ○県消防相互応援要請 「県消防相互応援隊の応援要請 書」様式第1号 送信 8:30 ○難防本部設置 ○参集状況 職員数208名→8割 167名参集済 ○信州上田MFC災害拠点病院 調整員 高藤氏 ○DMAT拠点 信州上田MFCに決定 トリアージ区分「黄」以上の 一次搬送先を信州上田MCとす る。 8:40 ○上田市災害対策本部設置済 派遣職員:宮下副署長 ライフライン状況 ○水道管・消火栓→不明 ○管内停電→国分地区 ○携帯電話→使用可能	8:30 ③高峰山及びアサマ2000パー ク 噴火災害 →指揮隊1、救急隊1、消火隊 1	8:35 ○火災・災害即報 作成・県及び消防庁へ報告(火 山噴火) ※火災・災害即報 第4号様式			
8:40									
8:50						8:50 ○県消防相互応援要請 ※「県消防相互応援隊の応援要 請書」様式第1号 送信 ○難防本部から指揮本部に移 行。			

- 前提条件
- ・緊急消防援助隊の進出に係る交通インフラの被害なし
  - ・一部地域で停電発生
  - ・その他ライフライン不明
  - ・降雨によりヘリ離陸不能(航空指揮本部は訓練不参加)
  - ・通信インフラの被害なし

【凡例】 (赤字)・・・重要事項(災害・意思決定) (青字)・・・要綱等に記載事項(黒字)・・・活動・その他事項 (緑字)・・・様式等 (紫字)・・・Web会議システム機能

千曲坂城消防本部 指揮本部・指揮支援本部		長野県 災害対策本部 消防応援活動調整本部	長野県 代表消防機関	消防庁災害対策本部	緊急消防援助隊		
千曲坂城消防本部		静岡市消防局/指揮支援隊	長野県/調整本部	東京消防庁/統括指揮支援隊	長野市消防局	総務省消防庁	応援都道府県/各部隊
状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容
<b>★フェーズ0 災害発生～緊急消防援助隊 応援要請までの各機関の災害対応 (訓練実施前に行った状況予測内容)</b>							
0119番通報なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>○被災地消防本部               <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部、各署の人員、車両、庁舎の被害確認</li> <li>・管内の被害状況収集(時間、場所、規模、出動隊)</li> <li>・職員招集(本部・各署)</li> <li>・各インフラ(ライフライン、交通、通信)の状況把握</li> <li>・関係機関(市町村、自衛隊、警察、医療)と情報共有</li> <li>・情報伝達方法、連絡先を確認</li> <li>・災害即報</li> <li>・長野県消防相互応援要請</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○被災都道府県(市町村)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部設置</li> <li>・被災地消防本部、市町村と被災状況の情報共有</li> <li>・代表消防機関・消防庁と情報共有</li> <li>・長野県消防相互応援について代表消防機関と調整</li> <li>○災害対策本部設置【消防班】                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県災害対策本部設置の連絡(代表消防機関及び被害の予想される市町村を管轄する消防本部)</li> <li>・被害の予想される市町村を管轄する消防本部に対し、被害状況の情報収集を実施</li> <li>・代表消防機関、総務省消防庁との情報共有</li> <li>・必要に応じ、消防本部に対し各種応援要請等に関する助言・進言実施</li> <li>・火災・災害等即報(消防庁即報)の直接即報率に該当するため、報告がされていなければ、市町村or消防本部に対し対応を依頼。</li> <li>・消防庁から迅速出動該当(要請要綱A表該当の旨)連絡</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要請要綱A表により出動準備該当、統括指揮支援隊は出動可能隊数の確認及び出動準備を実施</li> <li>・出動準備               <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都へ「出動可能隊数報告」要請要綱別記様式2-2 送信</li> <li>○消防庁から要請要綱A表により出動準備適用の旨の電話連絡</li> <li>※A表-1Ⅲ-A 統括指揮支援隊</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害状況収集</li> <li>○被災地消防本部と県消防相互応援に関する協議</li> <li>○長野県災害対策本部と情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7:30</li> <li>○消防庁災害対策本部設置               <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の情報収集(被害状況、インフラ、関係機関)</li> <li>・応援都道府県、全国へ判定表の送信、SJKに入力</li> <li>「応援都道府県 判定表」送信</li> <li>Na0-1-1</li> <li>・要請要綱A表の迅速出動該当県へ「出動可能隊数の報告及び出動準備」連絡</li> <li>・長野県へ迅速出動該当(要請要綱A表該当の旨)連絡</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要請要綱A表の出動準備該当都道府県               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出動可能隊数の確認及び出動準備を実施(統括・統合機)</li> <li>・消防庁へ「出動可能隊数報告」別記様式2-2 送信</li> <li>○消防庁から要請要綱A表により出動準備適用の旨の電話連絡</li> <li>※A表-1Ⅲ-A 統括指揮支援隊・統括機動部隊</li> </ul> </li> </ul>
8:03	<ul style="list-style-type: none"> <li>①千曲市八幡 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→指揮隊1、消防隊3、回5</li> </ul> </li> <li>②千曲市上山田温泉 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→指揮隊1、救助隊1、消防隊3、回5</li> </ul> </li> <li>③千曲市八幡 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→延焼拡大→対応中</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:00</li> <li>○全員招集完了</li> <li>○被害状況調査等を取りまとめ、関係各所に報告</li> <li>8:03</li> <li>○千曲市及び坂城町災害対策本部設置の連絡あり、またりエソンの派遣要請あり</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>8:00</li> <li>○消防庁(東京都経由)から出動準備依頼 及び出動可能隊数報告 要請要綱別記様式2-1 受領</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>8:00</li> <li>○長野県及び周辺都道府県から被害情報の収集</li> <li>○迅速出動の該当県に「出動準備依頼及び可能隊数報告」送付</li> <li>※要請要綱別記様式2-1</li> <li>○被災地消防本部から被害情報収集</li> <li>・浅間山噴火</li> <li>○要請要綱B表の指揮支援隊へ、出動可否の電話連絡</li> <li>・「出動可能隊数報告及び出動準備依頼」送付</li> <li>※要請要綱 別記様式2-1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:00</li> <li>○消防庁から出動準備依頼 及び出動可能隊数報告 要請要綱別記様式2-1 受領</li> </ul>
8:13	<ul style="list-style-type: none"> <li>④千曲市八幡 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→延焼拡大</li> </ul> </li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○被災地消防本部から被害情報収集</li> <li>・浅間山噴火</li> <li>○要請要綱B表の指揮支援隊へ、出動可否の電話連絡</li> <li>・「出動可能隊数報告及び出動準備依頼」送付</li> <li>※要請要綱 別記様式2-1</li> </ul>	
8:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤千曲市上山田温泉 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→対応中 救助隊1 増隊</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:13</li> <li>○千曲市及び坂城町災害対策本部にリエソンプ派遣</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本計画別表3による出動準備都道府県へ、出動可否の聴取</li> <li>※別表第3 災害発生都道府県【長野】</li> </ul>	
8:25	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥千曲市稲荷山 建物倒壊               <ul style="list-style-type: none"> <li>→指揮隊1、救助隊1、資機材運搬車1、救助隊2、回5</li> <li>→対応不能</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:15</li> <li>○被害状況と自消防本部の消防力を比較し、県内応援隊の要否を検討</li> </ul>					
8:31	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦千曲市上山田温泉 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→延焼拡大</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:25</li> <li>○被害状況と自消防本部の消防力を比較し、県内応援隊の要否を検討。(県代表消防機関とも協議開始)</li> <li>※県消防相互応援要請書 様式第1号</li> </ul>					
8:33	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧千曲市八幡 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→対応中 拡大阻止見込み</li> </ul> </li> <li>⑨千曲市稲荷山 建物倒壊               <ul style="list-style-type: none"> <li>→倒壊多数 火災なし</li> <li>→指揮隊1、救助隊1、資機材運搬車1、救助隊2、回5</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:33</li> <li>○緊急消防援助隊要請判断、市長、町長に確認、決定。</li> <li>○県防本部から指揮本部に移行(指揮本部設置)</li> <li>・県調整本部に指揮本部設置の報告及びリエソンプ派遣</li> </ul>					
8:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩千曲市打沢 土砂崩落               <ul style="list-style-type: none"> <li>→人員搬送車1、資機材運搬車1、救助隊2、回5</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:40</li> <li>○県消防相互応援隊に係る連絡 様式第7号</li> </ul>					
8:43	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑪千曲市稲荷山 建物倒壊               <ul style="list-style-type: none"> <li>→追加情報</li> </ul> </li> <li>⑫千曲市打沢 土砂崩落               <ul style="list-style-type: none"> <li>→住宅10以上</li> <li>→対応不能 増隊要請</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:43</li> <li>○県内応援隊、緊急消防援助隊の進出拠点、進出ルート、部隊投入場所等検討</li> <li>○自衛隊派遣要請検討</li> <li>○DMAT要請検討</li> <li>8:55</li> <li>○DMAT要請</li> </ul>					
8:55	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑬千曲市上山田温泉 建物火災               <ul style="list-style-type: none"> <li>→12棟延焼 拡大危険あり</li> <li>→消火隊不足</li> </ul> </li> </ul>						

進行時間	訓練統制 主なイベント	フェーズ シナリオ説明	様式等の授受	上田地域広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部			佐久広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部		
				上田地域広域連合消防本部		横浜市消防局/指揮支援隊	佐久広域連合消防本部		さいたま市消防局/指揮支援隊
				状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容
訓練開始 9:00	★フェーズ1 緊急消防援助隊 応援要請			災害状況報告・応援要請検討		災害状況報告・応援要請検討			
9:00	★長野県消防相互応援隊の応援決定 ★被災地消防本部から長野県災害対策本部へ災害状況報告 ★被災地市町村長(消防本部)から県知事(長野県)へ緊急消防援助隊の応援要請 ★現時点の応援体制報告(各本部約10分間)	○代表消防機関(長野市消防局)から被災地消防本部へ「長野県消防相互応援隊の応援決定通知」授受 ・被災地本部へ県消防相互応援隊の応援連絡 ○被災地消防本部から長野県庁へ災害状況及び応援要請検討に至る意思決定を報告 ○応援要請(応援等の要請のための連絡) ○現時点の応援体制報告	9:00 ○代表消防機関から「県消防相互応援隊の応援決定通知書」長野県消防相互応援隊実施細則 様式第2号送信 №1-1-1~1-1-4 9:00~9:31 ○被災地消防本部→県庁「応援要請(応援等の要請)事項」要請要綱別記様式1-2授受 上田広域 9:31 佐久広域 9:30 千曲広域 9:00 №1-2-1~1-2-3	9:00 ○上田市 災害対策本部 ・自衛隊派遣要請を検討 9:00 ○東御市災害対策本部設置派遣職員・石井係長 ○上田警察署内対応本部設置済 9:00~9:09 ○現在の被害状況報告 ○重要案件(緊要隊検討事項) ○活動方針について ○災害現場の位置関係を地図にて画面共有 ○道路状況の報告 ○進出地点の報告 9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊 9:20 ①上田市国分 建物火災 →消防隊1隊増隊 9:25 ⑥副立(上田市須川) →未対応 9:30 ③上田市常入 土砂崩落 →対応中 9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落 →救助隊2、救急隊3増隊 9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中 ○指揮支援部隊 9:55 常入・丁目土砂崩落:10棟浸没(20名行方不明) 材木町2丁目土砂崩落:20棟浸没(40名行方不明) トンネル崩落:5台浸没 10:10 ①上田市国分 建物火災 →対応中 ○SisK入力内容 ・常入・丁目土砂崩落:10棟浸没(20名行方不明) ・材木町2丁目土砂崩落:20棟浸没(40名行方不明) ・トンネル崩落:5台浸没 10:13 ○SJKに災害状況②入力 ○DIS入力 ○DIS入力内容 ・進出(上信越自動車道) ・火災(国分・大規模火災、海野町・大規模建物火災、海野町・大規模建物火災) ・乗客R(野竹トンネル崩落事故) ・倒壊(常入土砂災害、材木町土砂崩落) ・通行止(野竹トンネル、国道18号神川橋崩落) ・活版屋営業(県営上田野球場、自然運動公園) 10:26 ○消防庁から「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	9:00~10:00 ①佐久市岩村田 建物火災 →救急隊1、消防隊1増隊 ②浅間山 噴火災害 →対応中 ③高峰山及びアサマ2000パーク 噴火災害 →対応困難 ④佐久市 佐久クリーンセンター一帯 →対応困難 佐久広域の報告詳細 ○被害状況等の報告 ・管内市町村の震度 ・管内の状況、噴火警戒レベル、降灰状況 ・管内の気象 ○地震、噴火に関する報告 ・出動件数、隊数、隊数 ・その他の出動件数、隊数 ○道路状況 ・国道18号神川橋崩落 →通行不可 ・アサマサンライン野竹トンネル崩落 →通行不可 ○進出地点 おとぎの里 ・上信越道(下り) 東部湖の丸SA 9:30 ○長野県へ「応援要請のための連絡事項」 要請要綱別記様式1-2 チャット機能で送信 ・緊要隊の要請 ・必要な部隊の要請 9:44 ○県庁と消防庁で緊要隊の派遣場所に食い違いがあったので再度派遣場所を報告 9:49 ○SJKに被害情報を入力 ○長野県、代表消防と緊要隊要請検討 9:55 ○様式第2号県内応援隊決定通知書(資料)で送付された応援先一覧表の隊数の内訳が違っていたので代表消防に確認	9:00~9:19 ○被害状況等の報告 ○地震、噴火に関する報告 ○インパクト災害の詳細報告 9:16 ○SJKに被害情報を入力 ○県消防相互応援隊について ○佐久広域(消防、市町村)の災害対応 ○管内のインフラ状況 ○群馬県側の被害状況 ○噴火災害に係る必要資機材、装備品について			
9:10	被災地から長野県へ緊急消防援助隊の「応援等要請の連絡事項」	※応援要請が不参加の為、消防庁が要請要綱別記様式2-2を作成、2-1は省略。							
9:20									
9:30	★応援都県 緊急消防援助隊 ・出動可能隊数報告 ・出動準備 ★要請要綱 別記様式2-1、2-2授受	○緊急消防援助隊 ・出動可能隊数報告 ・出動準備 ※要請要綱 別記様式2-1、2-2授受	9:30 ○応援都県→消防庁「出動可能隊数報告」別記様式2-2 送信 部隊(指揮支援)、大隊、部隊(土砂崩)	9:30 ③上田市常入 土砂崩落 →対応中 9:31 ○長野県へ「応援要請のための連絡事項」 要請要綱別記様式1-2 チャット機能で送信 9:40 ○SJKに災害状況②入力 ○DIS入力 ○DIS入力内容 ・進出地点(おとぎの里、東部湖の丸SA) ・通行止(神川橋、野竹トンネル) 9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中 ○指揮支援部隊 9:55 常入・丁目土砂崩落:10棟浸没(20名行方不明) 材木町2丁目土砂崩落:20棟浸没(40名行方不明) トンネル崩落:5台浸没 10:10 ①上田市国分 建物火災 →対応中 ○SisK入力内容 ・常入・丁目土砂崩落:10棟浸没(20名行方不明) ・材木町2丁目土砂崩落:20棟浸没(40名行方不明) ・トンネル崩落:5台浸没 10:13 ○SJKに災害状況②入力 ○DIS入力 ○DIS入力内容 ・進出(上信越自動車道) ・火災(国分・大規模火災、海野町・大規模建物火災、海野町・大規模建物火災) ・乗客R(野竹トンネル崩落事故) ・倒壊(常入土砂災害、材木町土砂崩落) ・通行止(野竹トンネル、国道18号神川橋崩落) ・活版屋営業(県営上田野球場、自然運動公園) 10:26 ○消防庁から「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	9:30 ○長野県へ「応援要請のための連絡事項」 要請要綱別記様式1-2 チャット機能で送信 ・緊要隊の要請 ・必要な部隊の要請 9:44 ○県庁と消防庁で緊要隊の派遣場所に食い違いがあったので再度派遣場所を報告 9:49 ○SJKに被害情報を入力 ○長野県、代表消防と緊要隊要請検討 9:55 ○様式第2号県内応援隊決定通知書(資料)で送付された応援先一覧表の隊数の内訳が違っていたので代表消防に確認				
9:40	★緊急消防援助隊応援要請について検討・協議	○被災地消防本部、長野県、代表消防機関、消防庁で緊急消防援助隊応援要請の検討・協議							
9:50	★県知事(長野県)から長官(消防庁)へ ・応援等の要請 ・災害状況報告	○被災地から消防庁へ緊急消防援助隊の応援要請(県知事による応援等の要請)	9:50 ○長野県→消防庁「緊急消防援助隊の応援等要請」要請要綱別記様式1-1送信 №1-3-1 ○消防庁から出動該当都県(各部隊)へ出動の求め 9:55 9:58 ○「緊急消防援助隊の出動の求め」要請要綱別記様式3-1 №1-4-1、1-4-2	9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落 →救助隊2、救急隊3増隊 9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中 ○指揮支援部隊 9:55 常入・丁目土砂崩落:10棟浸没(20名行方不明) 材木町2丁目土砂崩落:20棟浸没(40名行方不明) トンネル崩落:5台浸没 10:10 ①上田市国分 建物火災 →対応中 ○SisK入力内容 ・常入・丁目土砂崩落:10棟浸没(20名行方不明) ・材木町2丁目土砂崩落:20棟浸没(40名行方不明) ・トンネル崩落:5台浸没 10:13 ○SJKに災害状況②入力 ○DIS入力 ○DIS入力内容 ・進出(上信越自動車道) ・火災(国分・大規模火災、海野町・大規模建物火災、海野町・大規模建物火災) ・乗客R(野竹トンネル崩落事故) ・倒壊(常入土砂災害、材木町土砂崩落) ・通行止(野竹トンネル、国道18号神川橋崩落) ・活版屋営業(県営上田野球場、自然運動公園) 10:26 ○消防庁から「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	9:44 ○県庁と消防庁で緊要隊の派遣場所に食い違いがあったので再度派遣場所を報告 9:49 ○SJKに被害情報を入力 ○長野県、代表消防と緊要隊要請検討 9:55 ○様式第2号県内応援隊決定通知書(資料)で送付された応援先一覧表の隊数の内訳が違っていたので代表消防に確認				
9:55	★長官(消防庁)による ・出動の求め	○消防庁から出動該当都県(各部隊)へ出動の求め							
				緊急消防援助隊 出動の求め(長官→応援都県知事→統括指揮支援隊、指揮支援隊、応援都県大隊、各部隊へ出動の求め)※応援都県は訓練不参加					
緊急消防援助隊 出動									
10:00	★消防庁 指揮支援隊の協議	10:00~10:17 ○消防庁、指揮支援隊協議 ※ブレイクアウトルームで協議	10:00 ○応援都県→消防庁「出動隊数の報告」別記様式2-2 ・指揮支援隊 東京、神奈川、埼玉、静岡、都道府県大隊 群馬、新潟、山梨、岐阜 ※本訓練では消防庁が作成	10:00 ②東御市海野町 建物火災 →対応中 10:10 ①上田市国分 建物火災 →対応中 10:20 ⑦上田市立第一中学校 異変 →指令車等3隊 10:26 ○消防庁から「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・消防庁、指揮支援隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で受領 ○災害状況、道路状況、他消防情報共有 ○統括、指揮支援隊配置図を下記図表示(出動先は上田広域) ○陸路での出動要請 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出 横浜市指揮支援隊ブレイクアウトルーム協議内容詳細 ○上田広域情報 ・常入土砂崩落 ・材木町土砂崩落 ・野竹トンネル崩落 3つの現場にて消防力不足被災地から情報取得要 ○長野県内の情報共有 ・降灰、噴火によりへり活動不可 ・道路情報、長野県内主要道路通行可 ・県庁、各市へ出動 ・へり活動可能時に発信 ・船隻準備は消防庁へ ・他家庁(自衛隊、警察)調整中 出動要請(未実施)	10:00~ ①佐久市岩村田 建物火災 →消防隊3増隊 ②浅間山 噴火災害 →対応中 ③高峰山及びアサマ2000パーク 噴火災害 →対応困難 ④佐久市 佐久クリーンセンター一帯 →対応困難 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・消防庁、指揮支援隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で受領 ○災害状況、道路状況、他消防情報共有 ○統括、指揮支援隊配置図を下記図表示(出動先は佐久広域) ○陸路での出動要請 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出		
10:10									
10:20	★長官(消防庁)から県知事(被災地消防本部)へ ・応援等の決定通知 ★指揮支援隊の協議	○消防庁から長野県庁へ(被災地消防本部)へ ・緊急消防援助隊応援等決定通知 ※添付される別記様式3-1は9:55にチャット送信されているので添付なし	10:23 ○「緊急消防援助隊の出動の求め」は指示)要請要綱別記様式3-1送信 ・部隊(土砂崩) №1-4-3 10:26 ○消防庁→長野県「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2送信 №1-5-1	10:20 ⑦上田市立第一中学校 異変 →指令車等3隊 10:26 ○消防庁から「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出				



千曲坂城消防本部 指揮本部・指揮支援本部		長野県 災害対策本部、消防応援活動調整本部		長野県 代表消防機関		消防庁災害対策本部		緊急消防援助隊	
千曲坂城消防本部		静岡市消防局/指揮支援隊		長野県/調整本部		東京消防庁/統括指揮支援隊		長野市消防局	
状況予測/事前作成		訓練実施内容		訓練実施内容		訓練実施内容		訓練実施内容	
訓練実施内容		訓練実施内容		訓練実施内容		訓練実施内容		訓練実施内容	
災害状況報告・応援要請検討				災害状況把握(応援要請助言)・応援等要請					
<p>9:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代表消防機関から 長野県消防相互応援隊の配置報告</li> <li>※県内消防相互応援協定実施細則 様式第2号</li> <li>チャット機能で受信</li> </ul> <p>9:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長野県へ「応援要請のための連絡事項」</li> <li>要請要綱別記様式1-2</li> <li>チャット機能で送信</li> </ul> <p>千曲坂城の報告詳細</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害状況等の報告</li> <li>消防本部の対応状況報告</li> <li>現在の状況(警防本部設置、職員招集状況)</li> <li>各災害の状況</li> <li>怪我人、逃げ遅れ、行方不明者の人数</li> <li>消火栓の使用可否</li> <li>出動隊数、活動状況</li> <li>消防力の不足場所</li> <li>応急救護所の設置状況</li> </ul> <p>9:19~9:31</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害状況等の報告</li> <li>iPad画面共有 WB、時系列、地図を共有</li> <li>消防本部の災害対応報告</li> <li>県内応援隊の要請状況</li> <li>DMAT、重機の要請状況</li> <li>自衛隊の要請状況</li> <li>県庁と緊援隊の派遣場所を協議</li> </ul> <p>9:20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千曲市八幡 多重衝突事故 → 救急隊2</li> </ul> <p>9:34</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千曲市八幡 多重衝突事故 負傷者多数 → 救急隊2</li> <li>→ 救急隊、救急隊不足 増隊要請 DMAT要請</li> </ul> <p>○長野県、代表消防と緊援隊要請検討</p> <p>9:51</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SJKに被害情報を入力</li> </ul> <p>9:58</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○しなの鉄道鉄道の運休情報、打沢地区の土砂災害によるものと思われる。</li> </ul>	<p>9:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代表消防相互応援隊の配置 把握</li> </ul> <p>9:00~9:31</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災地消防本部の災害状況取りまとめ</li> <li>○応援要請助言(要請検討済み確認)</li> <li>別記様式1-2</li> <li>チャット機能で受信</li> </ul> <p>○9:31~消防庁と情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消防庁と県内災害発生状況の共有</li> <li>天候(ヘリ活用)の検討</li> <li>SJKへの情報共有要請受諾</li> <li>他省庁の応援状況確認要請</li> <li>進出拠点、宿営地の検討要請</li> </ul> <p>9:50</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急消防援助隊の要請</li> <li>「緊急消防援助隊の応援等要請」</li> <li>要請要綱別記様式1-1</li> <li>チャット機能で送信</li> </ul> <p>情報提供依頼内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長野県及び被災地消防本部(佐久広域)へ風向、火山灰ハザードマップ要求(上信越道自動車道)</li> </ul>	<p>9:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災地消防本部へ 長野県消防相互応援隊の配置報告</li> <li>※県内消防相互応援協定実施細則 様式第2号</li> <li>チャット機能で送信</li> </ul> <p>9:00~9:31</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各被災地消防本部の災害状況把握</li> </ul> <p>9:01</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相互応援配置、各被災地状況聴取(各被災地消防本部による県への報告を受受していたが、緊急消防援助隊の出動に関わる災害情報のみの聴取を改めて行う)</li> <li>土砂風水害対策の要否</li> <li>天候及び噴火でのヘリ活用の可否 → 統括等の出動は陸路とすることを検討</li> <li>消防応援活動調整本部の準備状況確認</li> <li>現在の状況をまとめたものをSJKにアップするよう指示</li> <li>他省庁(自衛隊、警察、DMAT)への連絡状況聴取</li> <li>長野県の実援計画を確認し、進出拠点及び宿営地について、ハザードを考慮しながらの検討を依頼</li> <li>他省庁の実動部隊を考慮しつつ、第1出動都道府県隊を検討(4都道府県隊程度)</li> <li>○応援要請助言「出動可能隊数報告及び出動準備依頼」別記様式2-1送信(本訓練は省略)</li> </ul> <p>○被災地消防本部、長野県と緊援隊要請検討</p> <p>9:50</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県庁災害対策本部と緊急消防援助隊の要請検討</li> </ul> <p>9:50</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長野県からの緊急消防援助隊要請受領</li> <li>9:52</li> <li>※要請要綱 別記様式1-1</li> <li>チャット機能で受信</li> <li>ルート選定のため道路状況確認</li> </ul>	<p>9:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消防庁から「出動可能隊数報告及び出動準備依頼」別記様式2-1送信(本訓練は省略)</li> </ul> <p>9:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○応援要請→消防庁</li> <li>「出動可能隊数報告」</li> <li>別記様式2-2送信</li> <li>部隊(指揮支援)、大隊、部隊(土砂風)</li> <li>※本訓練では消防庁が作成</li> </ul>						
緊急消防援助隊 出動の求め(長官→応援都県知事→統括指揮支援隊・指揮支援隊・応援都県大隊・各部隊へ出動の求め)※応援都県は訓練不参加									
緊急消防援助隊 出動									
<p>10:00 10:08</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○SJKに被害情報を入力</li> </ul> <p>10:18</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○SJKに被害情報を入力</li> </ul> <p>10:26</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○消防庁から「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2</li> <li>チャット機能で受信</li> </ul>	<p>10:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレイクアウトルーム入室</li> <li>消防庁、指揮支援部隊の協議</li> </ul> <p>10:05</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急消防援助隊出動の求め</li> <li>要請要綱 別記様式3-1</li> <li>チャット機能で受信</li> <li>○災害状況、道路状況、他省庁情報共有</li> <li>○統括、指揮支援隊配置ぶら下がり図提示(出動先は千曲坂城)</li> <li>○陸路での出動要請</li> </ul> <p>10:17</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレイクアウトルーム退出</li> </ul>	<p>10:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレイクアウトルーム入室</li> <li>消防庁、指揮支援部隊の協議</li> </ul> <p>10:05</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急消防援助隊出動の求め</li> <li>要請要綱 別記様式3-1</li> <li>チャット機能で受信</li> <li>○災害状況、道路状況、他省庁情報共有</li> <li>○統括、指揮支援隊配置ぶら下がり図提示(出動先は長野県庁)</li> <li>○陸路での出動要請</li> <li>○長野県及び被災地消防本部へ追加情報提供依頼</li> </ul> <p>10:17</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレイクアウトルーム退出</li> </ul>	<p>10:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレイクアウトルーム入室</li> <li>消防庁、指揮支援部隊の協議</li> </ul> <p>10:05</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急消防援助隊出動の求め</li> <li>要請要綱 別記様式3-1</li> <li>チャット機能で受信</li> <li>・並行し、災害状況、道路状況、他省庁情報共有</li> <li>○統括、指揮支援隊配置ぶら下がり図WBで画面上に提示</li> <li>○陸路での出動要請</li> </ul> <p>10:17</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレイクアウトルーム退出</li> </ul>	<p>10:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○応援要請→消防庁</li> <li>「出動隊数の報告」</li> <li>別記様式2-2送信</li> <li>指揮支援部隊</li> <li>東京、神奈川、埼玉、静岡</li> <li>・都道府県大隊</li> <li>群馬、新潟、山梨、岐阜</li> <li>※本訓練では消防庁が作成</li> </ul>					

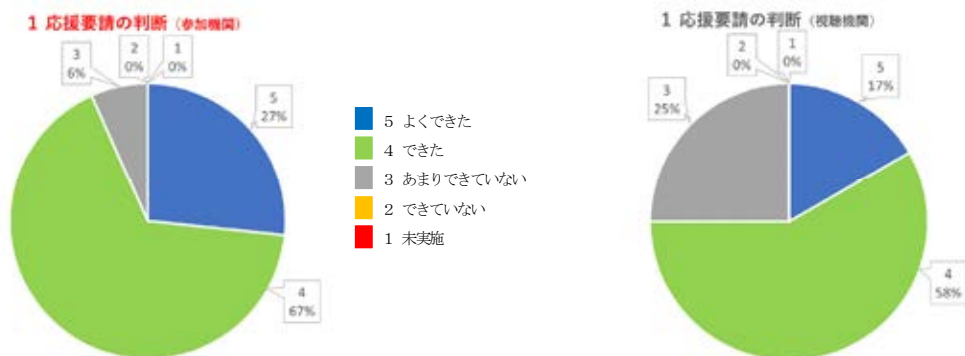
進行時間	訓練統制 主なイベント	フェーズ シナリオ説明	様式等の授受	上田地域広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部		佐久広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部			
				上田地域広域連合消防本部		横浜市消防局/指揮支援隊	佐久広域連合消防本部		さいたま市消防局/指揮支援隊
				状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容
10:30	★フェーズ2 緊急消防援助隊 配置検討			災害状況報告・応援隊配置受領	災害状況把握	災害状況報告・応援隊配置受領	災害状況把握		
10:30	★消防応援活動調整本部設置	10:30 ○受援県(長野県)は消防応援活動調整本部 設置 活動拠点を及び宿営場所の検討	10:35 消防庁がWeb会議システムでホワイトボードに記入した緊急消防援助隊の配置を提示 №2-1-1	○現在の被害状況報告 (10:00) ・火災2件 ・救助6件 ・救出27件(1件未対応) ○重要案件(緊援隊検討事項)の報告 ・園分建物火災 5棟延焼中、薪圧まで1時間 罹8階30名、10階40名 ・海野宿建物火災 6棟延焼中 罹8階32名、10階16名 ・常入土砂 10棟行方不明者20名ほど ・トンネル 上田側10台・東御市側5台 多重衝突・要救助者5名 トンネル上部の民家は避難済 ・材木町土砂 20棟行方不明者40名ほど ・須川地区孤立 道路の崩落・倒木発生 救+件孤立、車両でのアクセスは不能 ○方針について ・火災対応第一優先 ・消防力と比較→応援隊検討 ○道路状況 ・国道18号神川橋崩落 →通行不可 ・アサマサンライン野竹トンネル崩落→通行不可 ○進出拠点の報告 ・おとぎの里 ・上信越道(下り) 東部溝の丸SA 誘導員を配置完了					
10:40			10:43 ○代表消防→関係機関 「県消防相互応援隊応援先一覧」隊員数追加版 送信 №2-2-1						
10:50	★被災地消防本部から調整本部へ県内消防相互応援隊の配置・受援体制報告、災害状況の変化・追加報告 ★調整本部は指揮支援部隊長に被害状況及び活動状況等を報告	10:55~11:25 ○被災地消防本部から長野県緊急消防援助隊調整本部へ県内消防相互応援隊受援体制報告、災害状況追加報告		10:55~11:00 ○現在の被害状況報告 ○重要案件・方針の報告 ○災害現場の位置関係地図にて画面共有 ○道路状況の報告 ○進出拠点の報告	10:53 ○被災地本部までの到着 予定時間を消防庁に報告(3時間半)	ODJSへ入力内容 緊援隊、県内相互の活動拠点場所 ○被害状況等の報告 ・災害状況の経過報告 ○各インフラについて ・水利の状況 ・管内の道路、電気、水道、ガス、通信の被害状況 ○県相互、関係機関の情報 ・自衛隊の要請状況 ・県内相互応援隊の状況 ・生コン、バス等の協定に基づく要請の有無	10:53 ○被災地本部までの到着 予定時間を消防庁に報告(3時間)		
11:00						11:00 ○ODJSへ入力 緊援隊、県内相互の活動拠点場所 11:00~11:08 ○ODJSへ活動拠点入力 ○被害状況等の報告 ○浅間山付近の風向、風速 ○各インフラについて ○収容病院の受入状況 ○県相互、関係機関の情報 ○無線不感地帯のため無線中継車を要請 ○OSJKへ災害情報の入力			
11:10									
11:13 ★上田市 下堰千曲川右岸 決壊									
11:13	★上田市下堰千曲川右岸決壊	11:13 ○上田地域広域連合指揮本部より緊急報 ・上田市下堰千曲川右岸決壊(地震により堤防に亀裂が生じたものと考えている)		11:13 ○上田市下堰千曲川右岸決壊(地震により堤防に亀裂が生じたものと考えている) 現状：重直避難を指示 150世帯・要救助者300名 水難救助(ボート)を含めた再配置の検討を願う					
11:20	★消防庁から受援県(調整本部)へ ・出動隊数通知	11:25 ○消防庁から長野県(調整本部、被災地消防本部)へ緊急消防援助隊出動隊数通知	11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」入力 11:26 ○OSJKへぶら下がり図入力 №2-3-1、2-3-2	11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領		11:23 ○緊援隊の出動拠点、宿営場所、進出経路の報告 11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領			
11:30	★調整本部、統括指揮支援隊代表消防機関により応援隊の配置検討 ★応援隊の配置検討結果報告		(11:30) ○応援隊→消防庁 「出動隊数の報告」別記様式2-2送信 ・部解(土砂嵐) 埼玉、愛知、富山 ※本訓練では消防庁が作成						
11:40									
11:44	★フェーズ3 災害対応・受援体制検討			管轄内応援隊の配置検討 受援体制報告	被災地指揮本部 と協議	管轄内応援隊の配置検討 受援体制報告	被災地指揮本部 と協議		
11:44		11:44~ ○調整本部は緊急消防援助隊増隊要請				②基本情報 伝達事項 ・組織概要、職員数、面積、構成市町村、道路の整備状況 ・医療情報(管内、隣接する県への要請状況)			
11:50	★応援隊の配置・受援体制検討	○被災地消防本部(指揮本部)と指揮支援隊で応援隊の配置・受援体制検討		11:54~ ○指揮支援隊と確認事項 ②県相互の重機が1台 ・野竹トンネルは救助開始、市内業者の重機をこちらに配備する予定 ④了解 ⑥了解、県相互応援ボート4船と上田広域に3艇あるが、運用できる人員がいなかったため動員難 ⑦了解、県相互応援ボート4船と上田広域に3艇あるが、運用できる人員がいなかったため動員難 ⑧静岡県大隊の宿営地は自然運動公園を予定 ⑨同地区であるが、高低差があるため影響なし ⑩了解 ⑪給油所の情報	11:54~ ○到着所要時間(約1時間) ○上田広域への確認事項等 ①応援隊部隊の保有重機数 ②山梨3、山梨0 ③各災害の部隊配置 県入→愛知、材木町→埼玉 トンネル→山梨 ④千曲川右岸決壊に対応する部隊は静岡県大隊増隊 ⑤上田広域のボートについては静岡県大隊と調整 ⑥静岡県大隊の宿営地の検討 ⑦国分地区では火災と千曲川決壊が発生しているが影響はあるのか確認 ⑧進出拠点から後方支援小隊は宿営地、救助部隊は現場へ案内願う	⑥応援隊への伝達事項 ・必要となる特殊資機材、装備について ・道路状況、電気、ガス、水道、通信の状況 ・給油場所の情報 ・物質の積置状況、管内の店舗の状況	11:54~ ○指揮支援隊への報告事項 ①消防本部の基本情報 ②災害状況の報告 ・対応可能な災害と対応出来ない災害の報告 ・自本部の出動隊数 ③応援隊の特殊車両の要請状況 ④協定に基づく民間(バス)会社へ要請状況 ⑤自衛隊、民間重機要請状況 ⑥応援隊へ伝達事項報告 ⑦群馬県大隊でアサマ2000になる ⑧小諸市で要請予定	11:54~ ○佐久広域への確認事項等 ⑦①~⑥の報告事項について了解 ⑧応援隊の県大隊と出動場所の確認 ⑨指揮支援隊の現在地、到着予定時間を報告 ⑩火山専門隊の要請状況の確認	
12:00									
12:10									
12:20	★被災地消防本部の協議内容・受援体制 報告	12:20~12:24 ○被災地消防本部の協議内容・受援体制 伝達	伝達内容 ・部隊配置 ・進出拠点、宿営場所等	12:20~ ○緊援隊各都県隊の情報報告		12:21 ○指揮支援隊の現在地 ○緊援隊各都県隊の情報 ○道路状況、誘導員の配置報告			
12:24~13:00	★ 検 証 会 (13:00訓練終了)								

千曲坂城消防本部 指揮本部・指揮支援本部		長野県 災害対策本部・消防応援活動調整本部	長野県 代表消防機関	消防庁災害対策本部	緊急消防援助隊		
千曲坂城消防本部		静岡市消防局/指揮支援隊	長野県/調整本部	東京消防庁/統括指揮支援隊	長野市消防局	総務省消防庁	応援都道府県/各部隊
状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容
災害状況報告・応援隊配置受領		災害状況把握	災害状況取りまとめ 緊援隊(県内相互応援隊)配置検討・伝達			応援等決定 出動隊数通知	災害状況把握
	<p>10:33 ○長野県消防応援活動調整本部設置報告</p> <p>10:34 ○降灰による交通への影響を再確認</p> <p>10:37 ○緊援隊ふら下がり回避確認</p> <p>10:40 ○県内相互応援隊の活動状況共有</p> <p>10:54 ○進出拠点・宿営地の検討依頼受領</p> <p>10:55~11:25 ○各被災地消防本部からの被害状況(追加)報告受領</p> <p>○活動障害の確認</p> <p>○進出拠点・宿営地の検討報告受領</p> <p>11:00 ODJSへ入力</p> <p>○緊急消防応援隊の活動拠点場所</p> <p>11:08~11:13 ○被害状況等の報告</p> <p>○災害の経過報告、隊の活動状況</p> <p>・トリアージ情報</p> <p>・緑タグ搬送用のバス要請について</p> <p>○管内の道路通行状況</p>	<p>10:33 ○調整本部設置 報告</p> <p>10:34 ○降灰による交通への影響を再確認</p> <p>10:37 ○緊援隊ふら下がり回避確認</p> <p>10:40 ○県内相互応援隊の活動状況共有</p> <p>10:44 ○長野県へ確認</p> <p>・各地点の風向風速</p> <p>・活動障害(交通インフラ含む)</p> <p>10:49 ○長野県へ確認</p> <p>・県内相互応援活動中止基準</p> <p>・応援隊の規模充足確認</p> <p>・相互応援隊の規模</p> <p>・活動場所、活動状況の写真要求</p> <p>○総務省消防庁へ確認</p> <p>・緊援隊派遣陸上部隊の準備、隊数等規模の確認</p> <p>10:43 ○代表消防→関係機関</p> <p>「県消防相互応援隊応援先一覧」隊員数追加版 送信 No.2-2-1</p> <p>10:44 ○長野県へ確認</p> <p>・県庁・浅間山・高峰山・風向風速(県庁提示WBに記載要求)</p> <p>・活動障害・噴火警戒レベル、降灰が道路に及ぼす影響等確認</p> <p>10:49 ○長野県へ確認</p> <p>・活動中の長野県相互応援隊の活動中止基準を確認</p> <p>・現在提示されている緊援隊の規模で充足されるかどうかの確認</p> <p>・降灰が道路に及ぼす影響</p> <p>・相互応援隊が何隊、何名、隊種別出ているか</p> <p>10:35 ○長野県に出動隊配置通知(ふら下がり図提示)、SJKにも提示</p> <p>○長野県へ相互応援の活動状況共有依頼</p> <p>10:47 ○長野県に、統括指揮支援隊とともに緊援隊、県内相互応援隊の活動の取りまとめと指揮活動を統一するよう指示</p> <p>○統括に5項目指示</p> <p>○統括に6項目指示</p> <p>・指揮統制</p> <p>・活動中止基準を早期に策定するよう指揮支援隊に指示</p> <p>・災害の分析の後、増援の有無について指揮支援隊に判断させる</p> <p>・通信状況の確保</p> <p>・ドローン等活用し、映像情報の共有</p>	<p>10:43 ○代表消防→関係機関</p> <p>「県消防相互応援隊応援先一覧」隊員数追加版 送信 No.2-2-1</p> <p>10:44 ○長野県へ確認</p> <p>・県庁・浅間山・高峰山・風向風速(県庁提示WBに記載要求)</p> <p>・活動障害・噴火警戒レベル、降灰が道路に及ぼす影響等確認</p> <p>10:49 ○長野県へ確認</p> <p>・活動中の長野県相互応援隊の活動中止基準を確認</p> <p>・現在提示されている緊援隊の規模で充足されるかどうかの確認</p> <p>・降灰が道路に及ぼす影響</p> <p>・相互応援隊が何隊、何名、隊種別出ているか</p>	<p>10:35 ○長野県に出動隊配置通知(ふら下がり図提示)、SJKにも提示</p> <p>○長野県へ相互応援の活動状況共有依頼</p> <p>10:47 ○長野県に、統括指揮支援隊とともに緊援隊、県内相互応援隊の活動の取りまとめと指揮活動を統一するよう指示</p> <p>○統括に5項目指示</p> <p>○統括に6項目指示</p> <p>・指揮統制</p> <p>・活動中止基準を早期に策定するよう指揮支援隊に指示</p> <p>・災害の分析の後、増援の有無について指揮支援隊に判断させる</p> <p>・通信状況の確保</p> <p>・ドローン等活用し、映像情報の共有</p>			
	<p>11:25 ○進出拠点、宿営地の報告</p> <p>○更増ICの誘導員配置連絡</p> <p>○消防庁へ部隊配置確認</p> <p>11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領</p>	<p>11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領</p>	<p>11:19 ○長野県へ依頼</p> <p>・千曲川決壊災害の被害状況の早期情報共有</p> <p>・県消防相互応援隊が転戦可能部隊は千曲川決壊現場に部隊移動を考慮することを依頼</p> <p>11:28 ○総務省消防庁へ確認</p> <p>・千曲川決壊を受けて、ふら下がり図の変更はないか確認</p> <p>11:33 ○長野県へ確認</p> <p>・千曲川決壊の被害状況を河川カメラ等の映像を用いて、早急に精査するよう要求</p>	<p>11:13 ※千曲川決壊※</p> <p>11:29 ○統括からの依頼を受け、ふら下がり図の変更を検討、部隊移動・増援の検討を長野県と行うと周知</p> <p>11:31 ○長野県へ確認</p> <p>・千曲川決壊を受けて、相互応援隊の部隊移動等動向し、緊援隊のふら下がり図の変更が必要かどうか判断するよう指示</p>	<p>11:13 ※千曲川決壊※</p> <p>11:14 ○千曲川決壊の至急報に伴い、部隊増援検討</p> <p>11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で送信</p> <p>11:26 ○SJKへふら下がり図入力</p> <p>11:29 ○統括指揮支援隊と協議</p> <p>・緊援隊ふら下がり図変更</p> <p>・部隊移動、増援について</p> <p>11:31 ○長野県へ確認</p> <p>・千曲川決壊を受けた災害対応について協議</p>	<p>11:25 ○長野県へ「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で送信</p> <p>11:26 ○SJKへ「ふら下がり図」入力</p>	
管轄内応援隊の配置検討 受援体制報告	被災地指揮本部 と協議	災害状況取りまとめ 緊援隊(県内相互応援隊)各本部配置状況及び受援体制の把握			応援等決定 出動隊数通知		
<p>②各災害の経過報告</p> <p>・活動隊数と活動状況</p> <p>・怪我人、行方不明者の人数</p> <p>・緊援隊の対応する災害</p> <p>11:54 ○指揮支援隊への報告等</p> <p>・iPad画面共有、グループマップの地図で現場確認</p> <p>・チャットで地図データ送信</p> <p>③各災害の経過報告</p> <p>④現在の天候と予報報告</p> <p>⑤病院の受入状況報告</p> <p>⑥DMAT、重機、バスの要請状況報告</p> <p>⑦各県隊の投入場所を指揮支援隊に依頼</p> <p>⑧指揮支援隊の到着時間到着までの指揮体制の確認</p> <p>⑨県内相互応援隊の状況報告</p> <p>⑩活動中止基準、再開基準の作成について確認</p> <p>12:23 ○SJKに被害情報入力</p> <p>○緊援隊各県隊の配置場所の報告</p> <p>○指揮支援隊の到着予定時間</p>	<p>11:48 ○千曲川の決壊により静岡県大隊の出動場所について消防庁、統括と協議。</p> <p>11:54 ○千曲坂城への確認事項等</p> <p>①緊援隊の重機の編成状況</p> <p>・現在の活動状況確認</p> <p>②現場の天候と予報確認</p> <p>③病院の受入状況確認</p> <p>④関係機関要請状況の確認</p> <p>⑤千曲坂城からの依頼により各県隊の配置場所を調整し報告</p> <p>⑥到着予定時間と到着までの指揮体制について伝達</p> <p>⑦県内隊の活動状況確認</p> <p>⑧進出ルートについて確認</p> <p>⑨活動中止基準と再開について調整</p> <p>12:08 ○増援要請した緊急消防援助隊(静岡県大隊)の進出拠点及び宿営地の検討</p> <p>12:20~12:24 ○緊急消防援助隊出動隊の各被災地消防本部配置・受援体制検討状況把握</p>	<p>11:46 ○総務省より、千曲川決壊に伴う増援は静岡県隊との報告受領</p> <p>○静岡県指揮支援隊と別市町村での活動が可能かどうか総務省消防庁に確認</p> <p>○長野県に相互応援隊が千曲川に出陣されるかどうか確認</p> <p>○自衛隊等への応援要請の有無の確認</p> <p>・状況により、千曲川での活動を優先させることも提案</p> <p>12:20~12:24 ○緊急消防援助隊出動隊の各被災地消防本部配置・受援体制検討状況把握</p>	<p>11:49 ○県内応援隊の増援検討</p> <p>長野県に対して確認事項</p> <p>・今後、各被災地消防本部と指揮支援隊との協議結果を聞いたうえで、派遣隊の過不足の判断、千曲川決壊に派遣される静岡県隊の進出拠点の検討を依頼</p>	<p>11:45 ○千曲川決壊に伴い、長野県からの緊援隊増援要請</p> <p>・増援(静岡県隊)の提示</p> <p>11:46 ○統括・指揮支援(横浜)へ報告</p> <p>・千曲川決壊に伴う増援は静岡県隊の旨報告</p> <p>・指揮支援隊と異なる活動場所となる旨を静岡指揮支援隊に確認し、了承</p> <p>12:00 ○長野県に対して確認(被災地・指揮支援隊はブレイクアウトルーム協議中)</p> <p>12:08(BOR協議中)</p> <p>○長野県より、増援の静岡県隊の進出拠点、宿営地報告、了承</p> <p>12:20~12:24 ○緊急消防援助隊出動隊の各被災地消防本部配置・受援体制検討状況把握</p>			
★ 検証会 (13:00訓練終了)							

## 第2 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練の評価表集計結果

※意見は一部抜粋したもので、全ての意見はDVDに収録してあります。

評価項目	1 応援要請の判断
評価指標	県内相互応援隊・緊急消防援助隊の応援要請を行う際、発生している災害と自消防力の規模を考慮できたか。



### まとめ

県内機関では、事前に状況を予測しながらシナリオを作成したことで円滑にイメージを掴んで訓練に臨むことができましたが、応援要請に必要な最低限の情報を整理する必要があります。

### 1 訓練検討員

- (1) 被災地消防本部は自本部の消防力を考慮し、長野県へ緊急消防援助隊要請の意思を伝達できていたと思うが、外部機関の職員へ自本部の災害対応状況を伝える場合は定量的な情報（〇隊中〇隊が活動中で、未対応事案があと〇件発生している・119番通報が通常時の〇倍等）を伝達すれば、消防力の対応状況が伝わりやすくなると思った。
- (2) 代表消防本部についても、被災地消防本部の被災状況と県内の消防力を照らし合わせ、適切に県内広域応援隊の編成ができていた。
- (3) 県対策本部については、自衛隊や警察、TEC-FORCE、DMAT等、防災関係機関全体の応援状況を考慮する必要があるが、その辺の対応が見られなかった。

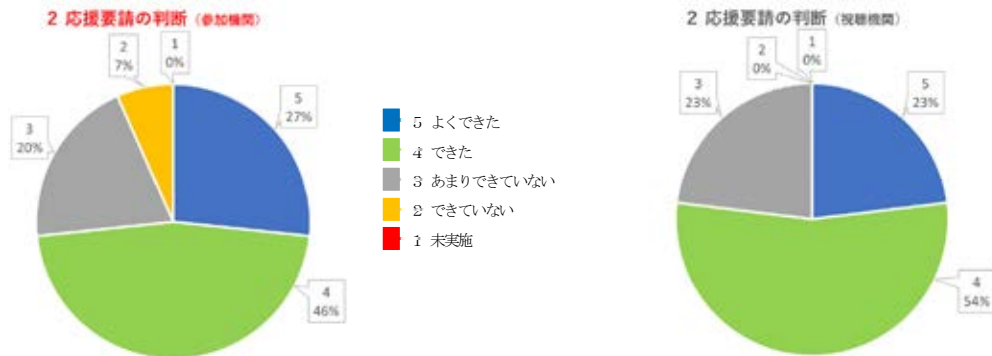
### 2 訓練参加機関

- (1) できた点・良かった点
  - ア Web会議システムで、突発的に発生した災害の速やかな覚知が可能となり、県内消防本部の出動可能隊数を取りまとめ、部隊配置の検討を行うことができたことから同システムのメリットを感じた。
  - イ 各被災消防本部で発生している災害、消防隊の数や出動隊、各署の残留人員及び待機車両等を把握することができ、緊急消防援助隊に対応を依頼したい災害を把握し適切に判断することが可能であった。
- (2) できなかった点・望む点等
  - ア 被災地の災害に対し県内相互応援隊が対応していることは情報共有があったが、部隊規模や人数の情報も欲しい。
  - イ 人命救助タイムリミット 72 時間を最優先に捉え初陣だけは部隊を増強し、進出拠点のみを被災地と協議し迅速に現地入りするべきである。

### 3 訓練視聴機関

- (1) できた点・良かった点
  - 各消防本部から被害の情報を収集し代表消防本部と協議の上、県内相互応援隊の出動、災害対策本部と協議の上、緊急消防援助隊の応援要請について迅速に判断をしていた。
- (2) できなかった点・望む点等
  - 災害現状を説明することに傾注し、消防力の優劣が曖昧である報告が散見された。発信する情報は、応援が必要な根拠となる災害に限定するなど、引き続き訓練を重ねる必要性を感じた。

評価項目	2 応援要請の判断
評価指標	緊急消防援助隊の応援要請を行う際、緊援隊に期待する具体的な活動内容の検討を行うことができたか



### まとめ

他機関と接続することで、広域的な状況把握が可能となるメリットがあり、自消防本部の消防力と災害規模を把握し、特殊車両等の要請について検討できました。要請時は、どの災害現場に何をどのくらい欲しいという具体的な情報も必要となります。

## 1 訓練検討員

土砂風水害や噴火災害等、災害の種別に応じて要望する活動内容を具体的に伝えられていた。

気になった点としては、消防庁から長野県庁へ、バギーや中型水陸両用車の必要性を問われた際、現場からそのような要望は聞いていないので必要ないと答えていたが、土砂風水害が発生+火山噴火による降灰+天候は雨であれば、高確率で当該車両・資機材等は必要となってくると思われることから、たとえ現場から要望がなくとも、発災初期の段階では当該車両等の要望は伝えておくべきであると感じた。また、河川決壊の対応については床上浸水の孤立家屋からの救出を最優先で考慮した場合、いち早く現場に、ボートをはじめとした水難救助資機材を保有する部隊の応援を選定すべきであるため、緊急消防援助隊以外の選択肢も検討すべきである。

## 2 訓練参加機関

### (1) できた点・良かった点

ア 現地合同調整所の設置など体制が確立されるまでは警察や自衛隊など他機関の状況はなかなか見えてこない。Web会議システムにより消防庁や県と繋がっている状況であれば、他機関の状況が容易に把握でき、緊急消防援助隊や県内相互応援に求める活動の検討材料となるので、メリットと感じた。

イ 自本部での対応、県相互応援隊での対応を順に配置し、未対応事案を明確にし、災害規模・必要な部隊や重機を必要とする現場、活動内容の検討などができた。

### (2) できなかった点・望む点等

ア 被災地における全ての災害情報より、何が不足しているのか(対応できていないのか)どのような活動を求めているのかなど、緊急消防援助隊が対応する詳細情報を先にいただきたい。

イ 多様な災害が同時に発生していたが、どの災害に応援要請すべきか、必要な資機材は何かを検討すべきであった。

## 3 訓練視聴機関

### (1) できた点・良かった点

ア 被災地消防本部での被害状況及び被災者数の把握ができていたことにより、土砂風水害機動支援部隊を要請するなどの検討ができていたと感じた。

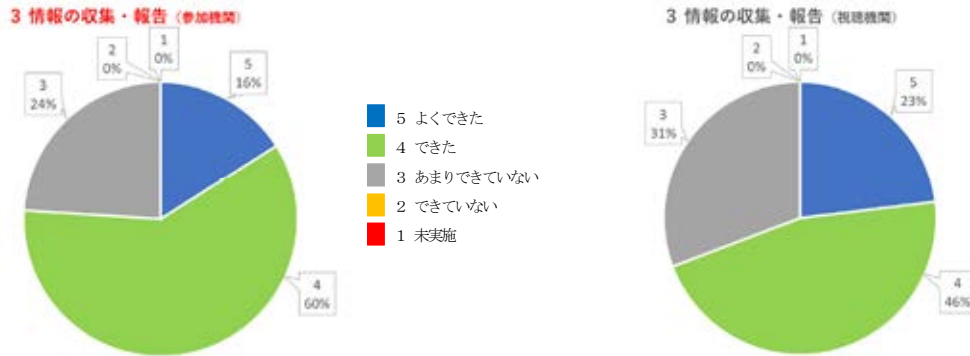
イ 初の訓練であることを鑑みると、電話等で行うより具体性を持った検討が行われていたと感じる。

### (2) できなかった点・望む点等

ア ○○市の○○という現場に派遣をお願いしたいということは分かったが、負傷者数や被害規模等にあわせて何が不足し、どの様な支援をして欲しいのか、分かればなお良いと感じた。(冒頭で被害状況の情

報提供はあったが、その後に情報の進展もあるため)  
 イ 活動内容等は、ホワイトボード機能を使用し、文字で示せれば良かった。国と県、統括指揮の間で情報を何度も聞き直していたような感じがした。

評価項目	3 情報収集・報告
評価指標	災害状況を整理し、報告内容を選別したうえで、情報を伝達していたか。



### まとめ

Web会議システムで対面でのやり取りができることで信頼性が高まり、応援側には不要なものを含め多くの情報を共有していました。情報の優先度を判断し適時的確に提供し、双方が取捨選択する必要もあります。また、先行出動する指揮支援隊が欲しい情報の出し方について参考となりました。

## 1 訓練検討員

自本部内の災害対応状況について、詳細に報告できていた。訓練進行上の問題かもしれないが、詳細な説明のうえ同じ内容を3度も報告しなければならず、大幅に時間を消費している印象があった。報告する相手に応じて、伝える内容を精査し、概要程度で良い相手には、簡潔明瞭に説明すれば報告時間の短縮につながると思われる。また、チャットや支援情報共有ツールの活用により情報の伝達は簡素化できるのではないかな。

## 2 訓練参加機関

### (1) できた点・良かった点

- ア Web会議システムで映し出されていた被災消防本部のホワイトボードの状況をスクリーンショットで印刷し、自機関のホワイトボードに転写しながら情報収集を行った。
- イ 対応依頼する現場について整理し、優先度を付け、必要な情報を抽出し情報伝達できた。

### (2) できなかった点・望む点等

- ア 災害情報の整理は、優先順位で並べると分かりやすい。例えば5件の災害のうち2番及び3番の災害について緊急消防援助隊に対応して欲しいではなく、順番を入れ替えて、緊急消防援助隊に対応して欲しい災害は1番と2番で災害拡大等を考慮し優先順位をつけるなどしてはどうか。
- イ Web会議システムに限らず、多い情報の中から必要な内容を整理し、端的に説明することが必要と考える。また、言葉よりも視覚で伝える方が伝わりやすいと思うので、映像を活用した情報の提供を心掛ける必要がある。

## 3 訓練視聴機関

### (1) できた点・良かった点

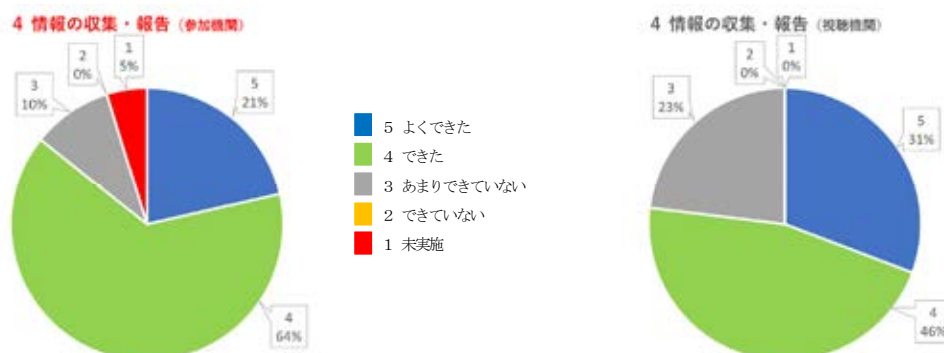
長野県災害対策本部と被災地消防本部では、災害を列挙したうえで必要な情報を選別し、どの災害に要請したいのか被災地消防本部の意向が示され、集約伝達することができたと思う。

### (2) できなかった点・望む点等

- ア 被災市から県庁に向けて、とても丁寧に報告され、全体像が分かりやすい部分はあったが、報告に時間を要した印象だった。限られた時間の中でどの情報を優先して報告するかは、検討の余地があると感じた。

イ 災害状況は整理されていたが、報告内容の選別に統一が必要と思われる。県内相互、緊援隊、災害派遣などの大分類で応援が必要な災害のみを報告するなど、統一を検討してはどうか。

評価項目	4 情報の収集・報告
評価指標	ホワイトボードや地図は、整然と記入され、Web会議システムの画面越しであっても分かりやすかったか



### まとめ

ホワイトボードや地図による視覚的な情報提供は、各機関で工夫され画面越しでも確認しやすく、Web会議システムの利点を効果的に活用していました。地図の全国的な統一化や地理不案内である応援隊への目標物表示等の配慮も必要となります。

## 1 訓練検討員

- (1) 地図の共有による説明は非常に分かりやすかった。可能であれば、会議参加者（応援側）が自発的にホワイトボード等を確認できるよう、ホワイトボードのみを常に映しているアカウントがあっても良いのではと感じた。
- (2) ホワイトボードに記入すべき内容や地図の活用方法など、全国的に統一化されていくと応援側においてもポイントを押さえた確認ができるのではないかと。ホワイトボードについては、すでに消防庁から示されている調整本部におけるホワイトボードのレイアウト案があるが、指揮本部におけるレイアウトや地図の活用方法などについても消防庁において今後統一していただきたい。

## 2 訓練参加機関

- (1) できた点・良かった点
  - ア ホワイトボードは整理されて簡潔にまとめられており、Web越しでも地図は見やすく、土地勘がなくても災害活動に移行した際のイメージができた。
  - イ 消防本部が受援用として独自で作成した地図を使用し、地理不案内な方でも大まかにどの辺が災害地点なのか分かりやすいように配慮した。Web用のホワイトボードは必要事項だけ記入し、詳細は他のホワイトボードで管理したほか、記入方法、使用する色等を検討し見やすくなるように努めた。
- (2) できなかった点・望む点等
  - ア ホワイトボードや地図は記入されていたが、土地勘のない指揮支援隊や他県大隊も理解できるような県庁や消防本部などの目標となる地点が書かれていないので、場所の特定に苦慮した。
  - イ ダウンロードできる添付資料にも早期に位置関係が把握できる地図があると初動がとりやすく助かるが、実災害時に少ない人数で短時間のうちにどれだけ情報を集め、どれだけまとめられるかも今後の検証が必要であると感じた。

## 3 訓練視聴機関

- (1) できた点・良かった点
  - ア 直接ホワイトボードをカメラ撮影している本部があり、リアルタイムで良いと感じた。

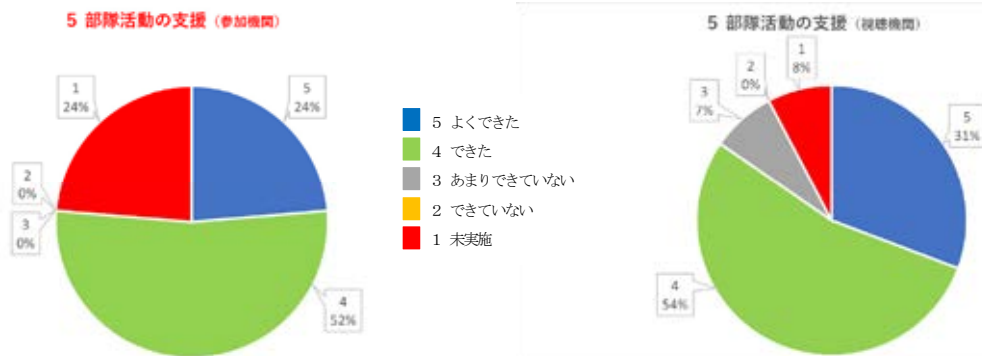
イ ホワイトボードや地図は分かりやすいように整理され、画面越しでも容易に情報が把握できた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 応援が必要な災害だけを書き記すなど発信する情報を明確にする工夫が必要と感じた。

イ 地域を知らない他県の隊からすると、県庁位置や地域情報の表示をすることは必要であり、様式をある程度統一した方が見やすいと感じた。

評価項目	5 部隊活動の支援
評価指標	緊援隊の活動に必要な、進出拠点や宿営場所を応援隊の規模に応じて検討できたか



### まとめ

消防庁・指揮支援隊・調整本部・被災地消防本部等がWeb会議システム上で検討できるため、応援部隊規模や道路状況に応じた進出拠点及び宿営場所の迅速な選定が可能となり、応援隊も地図アプリで規模感を把握することができました。部隊交代時や被害拡大による増隊に伴うスペースの確保についても検討する必要があります。

## 1 訓練検討員

応援隊の規模に応じた検討であったのかは確認できなかったが、消防庁等と連携し、的確に選定できていた。

## 2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

ア 消防庁、県及び代表消防機関の3者で検討ができるので、各応援機関の規模等に合わせ道路状況等について情報提供があり、調整がスムーズにできて良かった。

イ 指定された拠点の規模については、グーグルマップやアースなどを活用し規模感を把握することができた。さらに効率化を図るためには、地元本部の案内の人員や応援部隊責任者のカウンターパートの指定などを詳細な事項まで詰められれば良かったと感じた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 指揮支援隊としては、受け身となるが県隊規模の車両の受け入れ面積があるのか、また、長期化する場合の交代県隊車両の受け入れる面積を確保しているのか、時間経過と共に災害規模や状況が深刻化するなどの検討も必要である。

イ 進出拠点、宿営地は候補地以外でも考慮し、選定しておく必要があると感じた。

## 3 訓練視聴機関

(1) できた点・良かった点

進出拠点は、発災場所や道路状況等考慮し設定されていたと思う。宿営場所も、被害の拡大に伴う緊援隊増隊に併せて追加されていた。

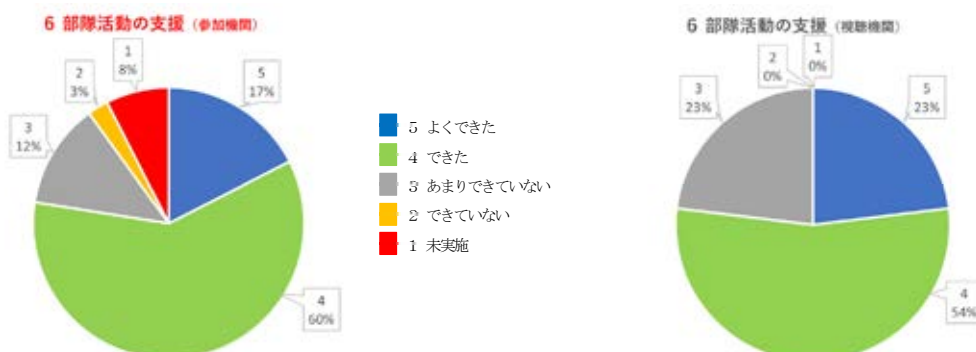
(2) できなかった点・望む点等

ア 少し決定までに時間を要した印象があった。県大隊は進出拠点までのルート選定をするので、早めに進出拠点を決定していただきたい。



イ 県全体の主要道路、消防本部の位置が載った白地図を県から提供いただければ、それを使用して各消防本部で情報提供資料を作成することができ、フォーマットが統一できると感じた。

評価項目	6 部隊活動の支援
評価指標	緊援隊の活動に必要な、道路網やライフラインについて確認し、効果的に共有できたか



### まとめ

主要道路やライフラインの情報提供は地図等を活用してできていましたが、地図などは動態情報システムや支援情報共有ツール等の併用が望ましいのではないかとの意見もありました。

また、時間とともに変化することから定期的な確認も必要になりますし、長野県は上信越道や長野道により複数方向からの進入が可能であり、部隊に最適な情報を早期に提供することが大切となります。

## 1 訓練検討員

- (1) 道路状況については、訓練参加の応援部隊が指揮支援関係のみであったことから、首都圏からの進出を考慮した道路情報の共有に思われた。実際は近隣都道府県隊が選別されることから、長野県のような地理であると、東西南北からの進出を考慮した情報提供が必要ではないか。
- (2) ライフライン状況として、停電や断水（特に宿营地周辺）、今後の天候情報（主に活動場所）なども随時提供できると更に活動までの調整が円滑になると感じた。また、地震による配管の損傷や、停電による浄水場ポンプ機能停止などによる消火栓等消防水利の情報も必要ではないか。

## 2 訓練参加機関

- (1) できた点・良かった点
  - ア 主要道路や停電情報、水利情報などのライフラインは、頻繁に確認及び情報共有され、グーグルマップ等のWeb地図を活用し道路状況を説明いただいたことで大変理解しやすかった。
  - イ 指揮支援隊として出動準備がかかった場合、出動手段及び経路をいち早く収集し、検討する必要があった。今回の訓練では、天候、噴火による道路事情など早期に収集できたが、7月に発生した熱海市での進出にあたっては、出動経路の選定に苦慮した。
- (2) できなかった点・望む点等
  - ア 噴火災害や土砂災害では、時間経過により道路状況も変わると思われるため、定期的にネクスコなどの管理事業者にお問い合わせ、その都度報告があったらいいと思う。
  - イ 受援側の被災地県に道路網やライフラインの情報提供を依頼させることは酷な要望だと強く感じた。自給自足が当たり前を大前提に、苦境に追い込まれている被災地の「助けられる命を助けたい消防精神」で緊急消防援助隊側事務局の方でリサーチし迅速出動するべきだと感じた。

## 3 訓練視聴機関

- (1) できた点・良かった点
 

Zoom上において、通行止め箇所やライフラインの状況等が被災市や県庁等から発信され、情報共有できていた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 言葉での情報が多く、記憶に残らなかった。文字による表示を入れると良かった。

イ ライフラインの情報共有を早期に行うことで応援隊の装備が変わってくるので重要だと感じた。

評価項目	7 関係機関間協議
評価指標	全体及びブレイクアウトルームにおいて協議・検討がしやすかったか



まとめ

全機関に必要な災害全般の情報はメインルーム、被災地ごとの情報共有や検討はブレイクアウトルームで実施するなど場面に応じた使い分けが可能であり、有効な機能で調整や検討が円滑に行われました。パソコン1台では、どちらかの情報しか収集できませんが、それぞれのルームにログインしたパソコンを準備することで情報の欠落がなくなります。

1 訓練検討員

各ブレイクアウトルーム移動後は、ホストアカウントである長野県庁以外は、全機関へ向けてアナウンスができないため、ブレイクアウトルームに移動する際に、メインルームにおける報告時間等の統一事項をあらかじめ指定・アナウンスしておかなければならないと感じた。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

ア メインルームでの総合的な議論の後に、ブレイクアウトルームで詳細の協議を行うという流れは対応を検討するのにあたり、とてもやり易く一対一で協議できるため必要な情報を共有するツールとして非常に有効と感じた。

イ 陸路では現地到着まで時間を要することから、まず、担当する被災地本部の指揮者とホットラインを構築し顔の見える関係（信頼性）を構築することは重要で、電話だけでなくブレイクアウトルームで映像を見ながら話ができただことは、良い取り組みと思う。

(2) できなかった点・望む点等

ア 全体での協議・検討は効果的に共有できたが、ブレイクアウトルーム内での協議・検討の状況が共有できない。

イ 操作上の権限を有するホストは協議、検討に参加しない担当の職員を置き、対応する必要があると感じた。

3 訓練視聴機関

(1) できた点・良かった点

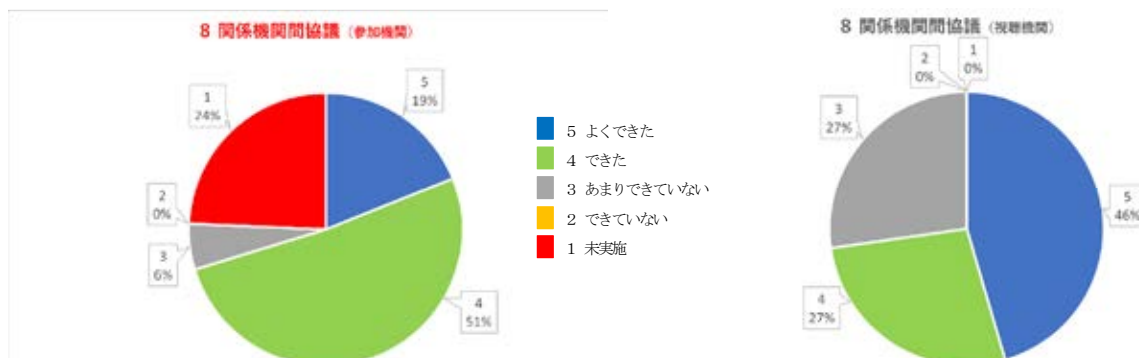
全体では協議、検討しやすいように感じ、各ブレイクアウトルームにおいては各ブース単位で検討・調整事項について協議できるのでとても効果的な手段だと感じた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 情報収集の段階においてもブレイクアウトルームを活用するなどして、情報収集する方法も考慮する必要があった。

イ メインルームとブレイクアウトルーム用のパソコン数台準備し、調整本部との情報共有を実施する必要があったと感じた。

評価項目	8 関係機関間協議
評価指標	指揮支援隊は、部隊配置等の検討材料とするための情報を、十分に聞き出すことができたか。



### まとめ

常時、被災地消防本部と指揮支援隊及び消防庁が情報交換可能で、ホワイトボードや地図を活用した説明により、救助現場の状況や道路状況などイメージしやすく、対面であるためお互いにやり取りが容易でした。指揮支援隊として聞き出せなかった情報もあり、聴取内容のリスト化が必要であるとのことで、受援側にもリストを共有いただくことで適切な情報提供に繋がります。

## 1 訓練検討員

オンラインでの対面であるが、ホワイトボードや地図を活用して被災地消防本部から情報提供できたことにより、交通情報や天候等、被災地の情報を基に、的確に協議できていた。

## 2 訓練参加機関

### (1) できた点・良かった点

- ア 被災地本部からの地図映像により、救助現場の状況や道路事情及び土地の雰囲気などが説明され、イメージしやすかった。また、県内応援部隊の車両特性（重機）等の把握ができ、被災地本部指揮者と意思統一が図られ、必要な県隊を配置する合意ができた。
- イ 発災からの時間経過を考慮すれば、得られる情報は限定的になる。指揮支援隊としては、進出拠点や宿営場所の情報、宿営場所から災害点までのルートが重要かつ優先度の高い情報で、これらの情報は、被災本部から提供していただくことができた。

### (2) できなかった点・望む点等

- ア 被害状況等を確認することはできたが、被災地消防本部の消防力（人員、隊数等）、災害地点ごとに必要となる隊や資機材を更に聴取する必要がある。次回は事前に聞き出したい内容を、あらかじめリスト化した。
- イ 指揮支援隊に対して地勢的な説明を丁寧に行うべきだった。

## 3 訓練視聴機関

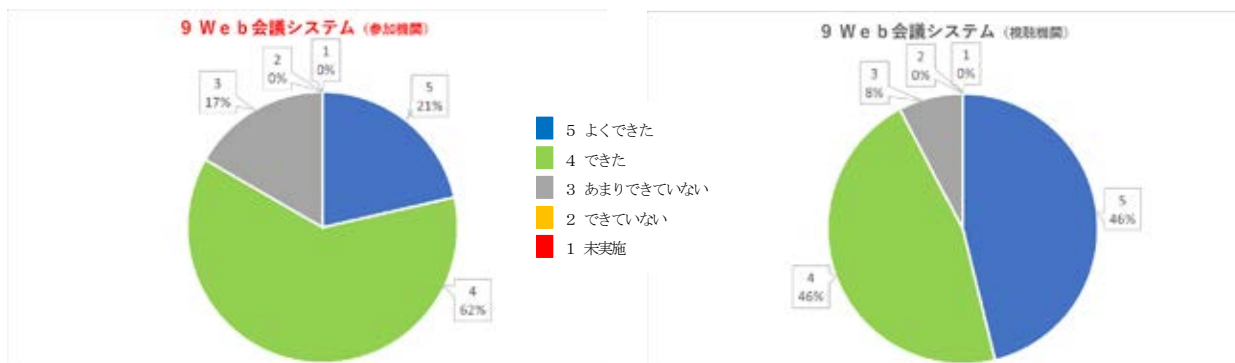
### (1) できた点・良かった点

- ア ブレイクアウトルームを積極的に活用し協議を行えた。
- イ 指揮支援隊は、部隊配置のために必要な情報のみを選別して聴取しており、要領及び迅速性は流石と感じた。

### (2) できなかった点・望む点等

- ア それぞれの被災地と指揮支援隊との詳細な情報交換には不向きな点もあったと感じた。
- イ 指揮支援隊が求める情報は多岐にわたり、言葉だけでは漏れが発生するため、チェックリストやメモなどアップロードする必要があると感じた。

訓練項目	9 Web会議システム
訓練指標	Web会議システム（Zoom）における機能を有効に活用し、情報収集できたか



## まとめ

Web会議システムは非常に有効な情報共有の手段であることが検証できました。従来の電話やFAXでは確認できないことも対面で行うことで信頼関係を築きつつ適時適切に情報共有が行え、チャットのファイル添付等の機能を有効に活用することで利便性と支援情報共有ツールとの統一化が図れるものと思われます。情報の取捨選択、パソコン操作員の確保、通信インフラの影響や車両内での活動においては課題もあり、大規模災害時に特化した省庁各機関共通のWeb会議システムのアプリケーションの開発が必要と考えます。

### 1 訓練検討員

地図や資料を画面共有しながら、情報共有ができたことは有効であると感じた。しかし、各機関が現地でまとめているホワイトボード等は常に映しておく、若しくはホワイトボードに記入した内容を定期的にチャットに貼り付けるなどすべきではないか。口頭による状況報告も必要であるが、もう少し視覚的情報（ホワイトボードや地図の常時閲覧等）を重視しても良かった。

### 2 訓練参加機関

#### (1) できた点・良かった点

- ア 双方向での情報交換ができ、映像の切替えやチャット機能の活用等、有効に活用して情報共有できた。非常に有効なシステムと感じた。
- イ 顔の見える中での協議、ホワイトボードや地図を活用した情報提供は音声のみに比べると格段に理解しやすい共有方法と感じた。

#### (2) できなかった点・望む点等

- ア 資料の提供するタイミングなどの検討やチャット機能でホワイトボード等の写真を送付しても良かった。
- イ 会議室等の余裕のある場所で訓練を実施したが、実際に出勤する車両内で実施可能か、また、高速で移動する車内での通信状況、大規模災害時の通信状況等課題は大きいと思う。

### 3 訓練視聴機関

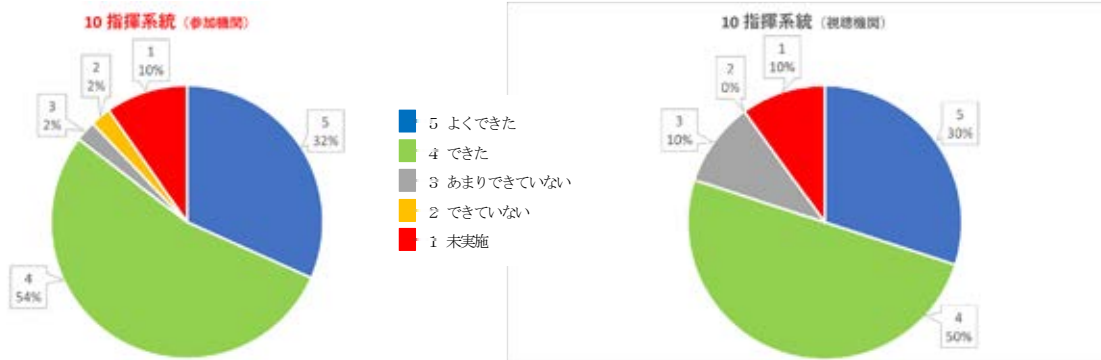
#### (1) できた点・良かった点

- ア 一度に複数の機関が同時に視聴でき、全体像の把握がしやすかった。また、確認事項をミーティングのような形の全体での協議は、決断までが早かったかなと感じた。
- イ 被災消防本部、県庁、応援隊等それぞれがリアルタイムで同じ情報を共有でき非常に良いシステムであると感じた。

#### (2) できなかった点・望む点等

- ア 共有情報には、現場写真等の映像も必要と感じる。航空活動が不可能な場合も考慮すると、災害状況と必要応援部隊数の勘案にいちばん有効な材料情報は映像であると考えます。
- イ 「緊急消防援助隊支援情報共有ツール」、「動態情報システム」と併用しながら活用できたら良いのではないかと。

評価項目	10 指揮系統
評価指標	各本部において指揮者（責任者）の指示のもと、効率的に情報の収集と伝達ができているか



### まとめ

被災地消防本部指揮者（責任者）の指示のもと、役割を理解して効果的に情報収集と報告内容の精査を実施し、指揮支援隊においても指揮支援隊長の指示で必要な情報を聴取しており、対面での情報共有の有効性が確認できました。今回は限定的な訓練でしたが今後も実災害において円滑に行うための習熟訓練が必要と考えます。

#### 1 訓練検討員

意見無し

#### 2 訓練参加機関

##### (1) できた点・良かった点

- ア 同じ情報をシステム上共有することで、情報の相違がなくなり、活動方針等の意思決定が早く、迅速な活動につながると感じた。
- イ 指揮支援隊長から隊員に対する指示、部隊内での任務分担と調整も円滑に実行でき、効率的な情報の受伝達が行っていた。

##### (2) できなかった点・望む点等

受入側消防本部が不慣れな場合、指揮系統が混乱するようになった。

#### 3 訓練視聴機関

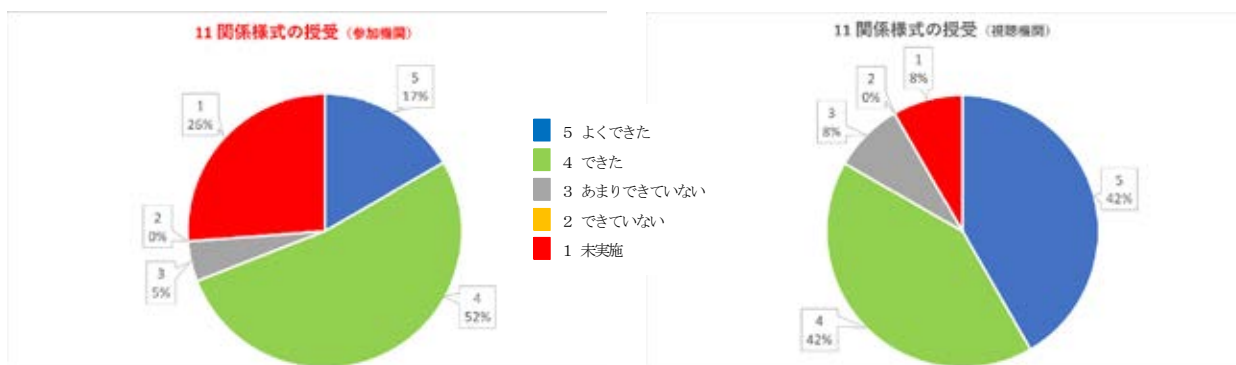
##### (1) できた点・良かった点

各機関への情報共有及び伝達のためには、災害の実態把握が重要だが、指揮者の的確な指示の下、情報の収集及び伝達できていた。

##### (2) できなかった点・望む点等

- ア 収集した情報と伝達する情報はイコールではなく、収集した情報の中でも県庁に報告する内容と消防庁まで報告する内容は分けた方が良かったと感じた。
- イ 今回はシナリオがあったこともあり、スムーズに情報収集及び伝達できていたが、実災害になればさらに時間がかかり、情報収集が難しい部分もあるのではないかと。

評価項目	11 関係様式の授受
評価指標	緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱等に基づく各様式のやりとりは的確にできたか



## まとめ

要請要綱の各様式の授受についてはチャットのファイル添付機能で可能であることが確認できました。ルーム退出でファイルが消去されますが、簡単な操作で端末に保存できます。要請要綱では各様式はFAX（併せて電子メール）と定められておりますが、Web会議システムではファイルを開き、その場で不明な点を確認できるなど利便性は高く、受援側の進出拠点や宿営場所選定においても早期に部隊規模の把握に繋がるものと考えます。现阶段では、動態情報システムや支援情報共有ツールを効果的に併用し、将来的には統一化が最善と考えます。

### 1 訓練検討員

概ね的確にできていたが、シナリオ上でない千曲川決壊に伴う静岡県大隊の増隊に係る様式は、訓練時間内に作成・送付できていなかった。様式作成・送付に係る手順については、再度確認していただきたい。

### 2 訓練参加機関

#### (1) できた点・良かった点

- ア 様式等を当該システムで受領することができ、受信できているか確認も併せて行えたため有益であった。
- イ 各様式のやり取りは、要綱に基づき良好にできていた。
- ウ 要請要綱等の内容を把握した上で行うのであればFAXで行うよりもスムーズであるし、更に県内相互応援隊と緊急消防援助隊のそれぞれに対する依頼内容及び出動部隊の状況が把握できることはメリットである。
- エ 要請書等が画像で確認できたので、口頭確認よりも迅速かつ確実と感じた。
- オ Zoomでの各様式及び支援情報共有ツール・動態管理システムを活用した情報の発信をすることができた。

#### (2) できなかった点・望む点等

- ア 実際の流れで実施した場合は様式のやりとりも増えると思われるし、メインルームから退出した場合はデータが残らないため、ミスが起こりそうだと感じた。
- イ インターネット環境の関係で、使用しているパソコンにプリンターが接続されておらず、せっかくの様式がすぐにプリントアウトできず環境整備が必要であった。

### 3 訓練視聴機関

#### (1) できた点・良かった点

- ア アップロードと同時に全機関が確認できる情報の共有ができるため有効な手段だった。
- イ 各機関において、Zoom上で「〇〇の様式をこれから送ります」など、リアルタイムでスムーズなやり取り及び確認ができていたと感じた。

#### (2) できなかった点・望む点等

- ア 通常は電話＋FAXでするところ、ズームのみで行った点について、会話が続いていた場面で送ったこともあり、適切に受理されたのかわかりにくい部分があった。様式のやりとりは大事なものであるため、

従来どおりが望ましいと感じた。

イ 同じ様式が何度も共有されていたと感じた。データを共有にアップする場合、データ名に何処からの何時の発信などサブ的な情報を入れないと実災害時には混乱してしまうと感じた。

## 課題と現段階における対策

Web会議システムが有効に活用でき、将来的に大きな可能性があることが確認できたが、課題も挙げられます。

課題	対策
Web会議システムの起動について 「どの機関がWeb会議システムを起動するか」	県内での訓練や大規模災害が発生した場合に積極的に活用し検証を継続して進めていくことが大切と考えます。 今後、全国的にシステムを統一した場合、要請要綱に定められた出動区分に該当または消防庁が必要と認めた災害が発生した場合に、消防庁がWeb会議システムを起動、また前段階で県が起動し、起動者が支援情報共有ツールにログイン情報を記載し、対象各機関が順次ログインしていく体系に移行していくことが可能です。
車両内でのスペースについて 「車両内では会議室のように情報収集できない」	積載可能な装備で、可能な範囲の情報を収集します。 車両更新時には、車両選択と装備積載品を検討し、通常災害時においても有効に情報共有が図れる車両製作とします。
通信インフラについて 「インターネット回線が使えないこともある」	現段階では、従来の電話回線通信網の活用となりますが、衛星回線をIP化しWeb会議を実施している省庁もあります。衛星回線の活用が災害時には最良と考えます。 第一選択はWeb会議とし、予備として現在の電話またはファクスとします。 動態情報システムと支援情報共有ツールも同様のインフラ対応が必要となります。
情報の共有 「過剰な情報提供で時間を要した」	今回は訓練であり、順番に情報提供し時間を要しました。実災害時は災害の全体像と活動状況を伝達した後は、それぞれのタイミングで必要な情報を提供します。対面で質疑を交わすことが可能となり、過不足なく情報提供ができ、信頼関係が築けることも大切な要素です。 指揮本部内の映像も確認でき、被災地消防本部の緊迫感なども伝わります。 予め、情報収集様式を作成し、簡潔に情報共有することも有効と考えます。

<p>パソコン操作員の確保について 「パソコン操作員が不慣れで、貴重な人員をパソコンに取られてしまう」</p>	<p>新しいシステムを使用する際は、誰もが不慣れで習熟訓練が必要となることには変わりはありません。 システムが確立し、明確な情報共有ができればリエゾンの削減に繋がり、パソコン操作員を設けても人的負担は増加しないと考えます。</p>
<p>各種様式の授受 「ファクシミリとなっているが、確実にできるのか」</p>	<p>ファクシミリであっても送信した様式が埋もれてしまう可能性はあります。Zoomではチャットのファイル添付機能で様式の授受は可能ですが、ルーム移動で未保存ファイルは消去されてしまうため、ファイル添付者はルーム内でアナウンスし、受領側は簡単な保存作業を行うことで回避でき、確実性も高まります。 また、現段階では、様式の授受を支援情報共有ツールで実施することも考えられます。 各様式は、通常の都県主管課を経由するルートと異なり、ログイン機関がアップロード直後から閲覧できますが、応援側は、応援要請様式で部隊の編成や特殊装備、受援側は、出動隊数様式で部隊規模の把握ができ進出拠点や宿営場所の選定に必要な情報を早期に入手できます。 要請等に関する要綱の改正も必要となってきます。</p>

今回の訓練において、情報共有ツールとして有効であることが検証できたことから、今後も、実災害や訓練において活用し、課題の洗い出し、システムの選択、必要または不要な機能等について検討を進めていくことが全国的に統一したシステムの確立には必要と考えます。

今後、全国規模の応援が必要となる地震災害も想定され、想定外の災害の発生も考えられる現時点において検討し、整備していくことが必須と考えます

更に、後方支援本部も加わることで長期間の応援活動に必要な情報が共有でき、資器材の増強等を行い効率的な活動に繋がるものと考えます。

災害時にダウンすることの無い通信インフラの整備と全国的に統一したシステムで、迅速な情報共有、円滑な応援要請と活動支援、効率的な災害活動を望みます。



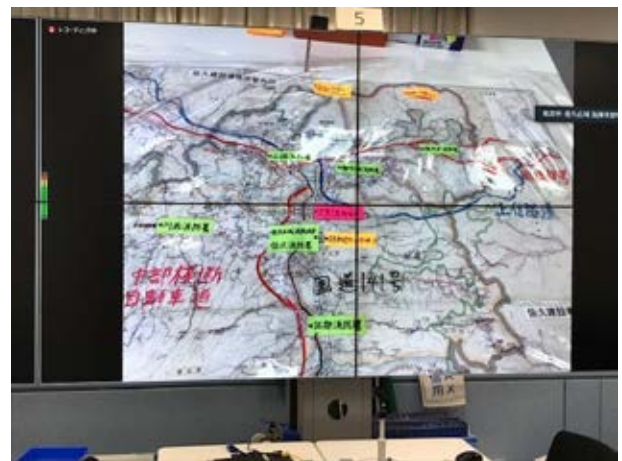
# 総務省消防庁



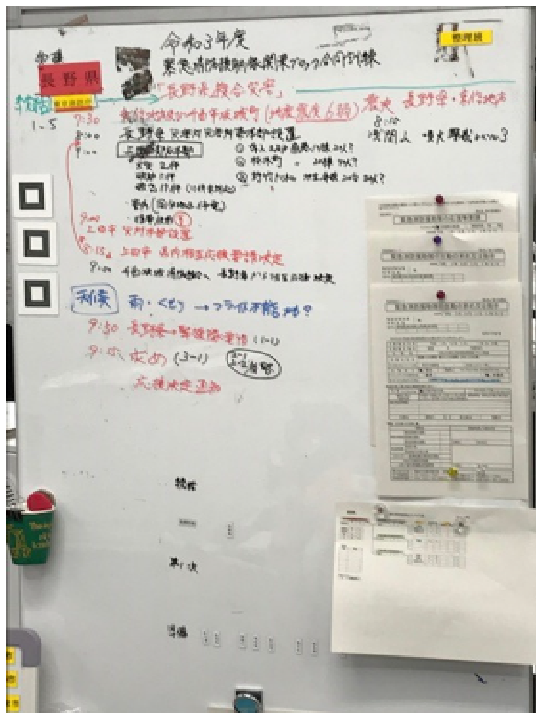
ホワイトボードをカメラで撮影



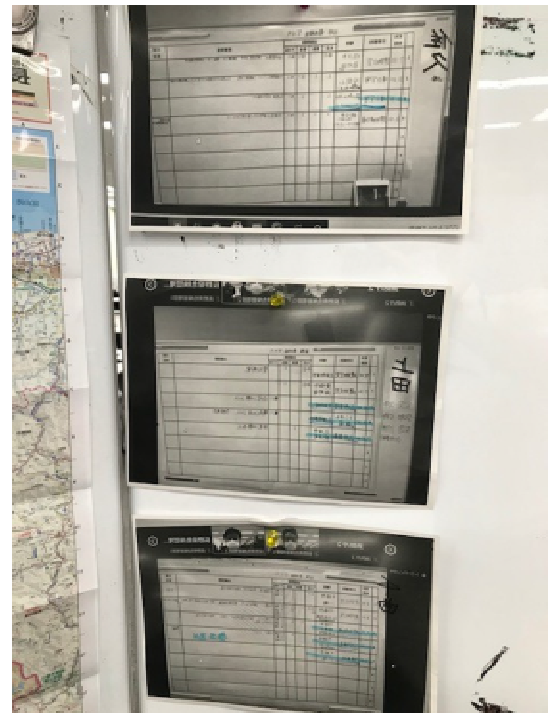
大型モニターに投影されたD J S画面



地図を使用し交通網の被災状況を説明



ホワイトボード記載と各様式の貼付



災害情報をスクリーンショットし印刷

## 東京消防庁



指揮支援部隊長による指示



ホワイトボードによる情報の整理

## 横浜市消防局

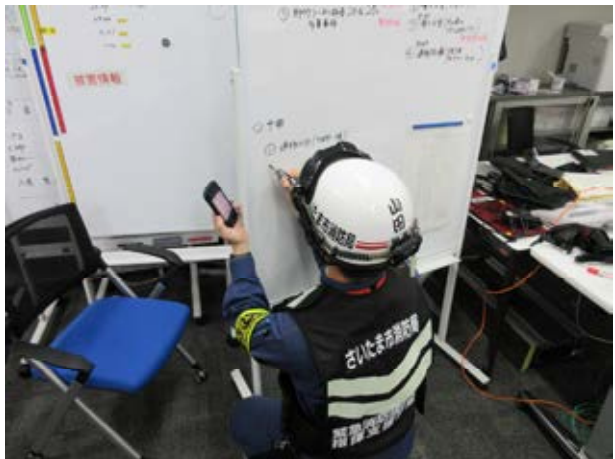


緊急消防援助隊出動



各種様式の授受

## さいたま市消防局



被災地からの情報収集とホワイトボードへの記載

## 静岡市消防局



指揮支援隊隊員間での情報共有

## 上田地域広域連合消防本部



長野県庁と災害情報共有



ブレイクアウトルームにて  
指揮支援隊（横浜市消防局）と協議中

## 佐久広域連合消防本部



長野県庁と災害情報共有



管内被災状況と活動状況時系列作成

## 千曲坂城消防本部



ブレイクアウトルームにて指揮支援隊（静岡市消防局）と協議中

## 長野県庁



被災地ごとに災害情報を記載



代表消防機関リエゾンも含めた調整本部員により、地図上へ災害地点等の記載



訓練の最後に  
訓示をいただきました（ビデオ）

総務省消防庁  
消防庁長官 内藤 尚志

### 第3 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案

#### 1 提案背景

緊急消防援助隊や消防相互応援隊での宿営は、エアータントを使用し10名前後で仮眠をとるスタイルが一般的である。しかし、新型コロナウイルス感染症の出現、流行により、従来のように大人数で宿営を行うことができず、何らかの感染症対策を講じなければならない状況となった。当事務局でもエアータント内の人数を減らし、距離を保って仮眠をとる案やパーティション等を使用し飛沫による感染防止対策を講じる案等を検討したが、高額なエアータントの増設、エアータントという閉鎖空間でのパーティションの有効性への疑問があった。

また、近年、消防職に従事する女性は増加傾向にあり、緊急消防援助隊においても、女性が安心して活躍できる場を早急に整える必要がある。特に宿営に関しては、仮眠や着替える場所の確保等、様々な課題が山積しており、十分な解決策が提示できていないのが現状である。

これらの課題に対する解決策を当事務局で検討していくうちに、「山岳用ソロテントを用いた宿営」を行うことが課題解決の一助になるのではないかという考えに至った。



エアータント



ソロテント

#### 2 概要

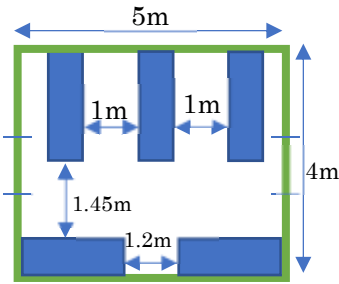
当事務局では宿営時の様々な課題の中から5つに絞り、それらの解決策としてどのようにソロテントを用いるかを検討し、名称を「長野県実行委員会モデル」としたうえで、実際に関東ブロック合同訓練における後方支援訓練にて、長野県消防相互応援隊の宿営をソロテントで行う予定で計画を進めた。

##### (1) 長野県実行委員会モデルの柱となる5つの課題とそのメリット

###### ア 新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策

エアータント宿営では、適切な距離を確保した状態で仮眠をとる必要があるため、1張を5名程度で使用するのが妥当と判断した。これ以上の人数だと、いわゆるソーシャルディスタンスを保つことができないためである。また、距離を保ったからといって十分な感染症対策になるとは言えず、パーティションを設置しても完全に区画されるわけではないため、密閉状態に近い空間であるエアータントでは、感染症対策を行うには厳しい環境と言わざるを得ない。換気装置の使用も考えられるが、設備の購入に費用が掛かる他、エアータント使用時は常時運転させておかなければならないため、被災地での燃料不足及び電力確保に不安がある中で、果たして最善の策となるのか疑問がある。また、仮眠時でもマスクの着用が必須になると考えられ、日中激務をこなした隊員の休息に支障があるのではないかとと思われる。

その点、ソロテント宿営は1人に1つのテントを割り当てることで各々が隔離され、仮眠時に感染症対策を意識せずに過ごせる利点がある。また、体調に異変が生じた場合にはそのまま専用の救護所となるため、改めて救護所を設ける必要はなく、宿営においては濃厚接触者を出さずに済む。



5名でエアテントを使用した場合の配置例(パーティションは省略)

### イ 女性消防吏員の活躍推進

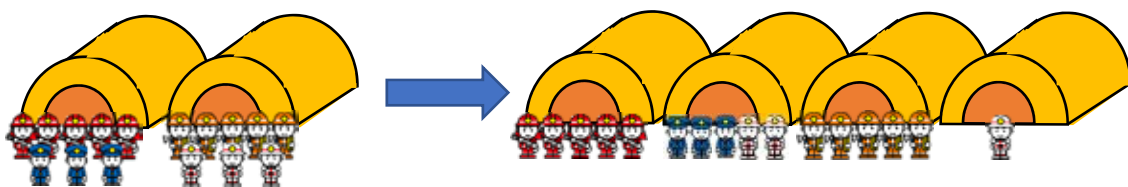
女性が緊急消防援助隊等で宿営を行うにあたり様々な課題があるが、その中でも仮眠、着替えを行う場所の確保は、ソロテントを使用することで解決できると考える。労働安全衛生規則第616条及び第618条にあるとおり、仮眠場所や休養場所は男女別としなければならない。大隊内の女性を集め中隊を作り宿営を行う案や、支援車を女性専用としたり別施設を用意したりと様々な案はあるが、普段接する機会が少ない他本部の隊員を集め寝食を共にさせるのは、かえって気を遣わなければならないと思われ、十分な休養にはつながらない可能性がある。女性用の別施設を用意する場合でも、宿営場所を複数用意することは受援側の負担になるうえ、都合よく規模に合った施設があるとも限らない。さらに、別行動ゆえ自本部の活動と切り離されることは、たとえ宿営時だけであっても心許無いとの意見もある。

その点、ソロテントを使用すれば性別に関係なく個人のプライバシーを確保できるうえ、自本部と切り離されることもなく全隊員が同じ条件で宿営できると考える。

### ウ 宿営設備のコスト削減

エアテントは本体と設営に係る必要物品(ブロアー、内幕、フロアマット等)、換気設備や冷暖房機等を併せると1式で数百万円もの金額となる。導入時は総務省消防庁より貸与されたものであっても、年数が経過すれば各々で更新しなければならない。さらに、新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策においてエアテント1張5名で宿営を行えば、必要となるエアテントはさらに増加し、それぞれに設備も必要となる。

例：主要3隊(13名)+後方支援隊(3名)で考えると・・・



8名ずつ2張で宿営できていたものが、社会的距離を考慮し1張5名で宿営すると、テント数が4張となる

ソロテントは新規に購入する必要はあるが、1張数万円が相場で必要となる物品は基本的に本体に含まれており、総務省消防庁より貸与されているエアーマットやシュラフを使用し宿営することもできる。テントの性質上、暖房の設置はできない(直火を使用できない)ため、暖房を必要としなくとも宿営が可能な装備の検証が必要である。

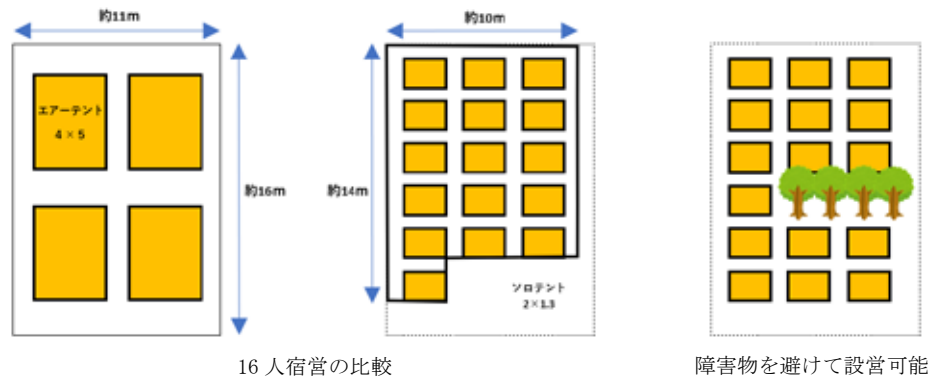
夏場は、出入口や換気口を使用して風通しを良くする等の対応が必要となる。メッシュ地の出入口や蚊帳がついた換気口を備えたソロテントであれば防虫対策もできる。エアテントでは外部電源使用時にエアコン等使用可能だが、電源の使用に制限があればソロテントと同様に出入口等を開放して風が通るようにする必要があるのであるため、被災地で電力確保等に不安がある状

況下では、ソロテントと条件は同じである。

## エ 後方支援活動スペースのコンパクト化

新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策により、エアータント1張の人数を絞ると必然的にエアータントの必要個数は増加する。当事務局で試算した結果、50名の大隊であれば、従来なら5張前後で100㎡（4×5サイズに10名宿営でテント周辺の間隔を考慮しない場合）の面積を必要としていたが、感染症対策下では10張で200㎡（条件同じ）と2倍の面積が必要となってしまう。これは、より広大な場所が必要になったり、複数大隊での使用を見込んだ場所でも単独でしか使用できなくなるケースも考えられ、その場合、受援側は複数の場所の確保を余儀なくされ、負担の増加になる。

一方ソロテントは、テント内に荷物を置くことを考慮して一般的な2人用（おおよそ130×210）を使用した場合でも、50張で136.5㎡（テント周辺の間隔を考慮しない場合）と、エアータントと比較して約68%の面積に抑えることが可能となる。また、木や建築物等があった場合、エアータントでは、設置できずにデッドスペースとなってしまう場所ができてしまうのに対し、ソロテントは障害物を取り囲むように設置したり、1人分だけずらしたりといった比較的自由度の高いレイアウトができるため、スペースを有効に活用できる。



後方支援活動では他にも給食エリア（こちらでも感染症対策で1テーブルに着くことができる人数が制限されるため、より拡大することが予想される）や、デコンタミネーションエリア（消毒含む）等必要とする設備が様々あり、宿営に割くスペースが小さくなることは大きなメリットとなる。

## オ 設営負担の軽減

宿営設備を設営するのは後方支援小隊である。長野県の現状は、各参加本部から2～3名の隊員が出動し、自本部分の設備を設営するのが通常である。大隊で一体的な後方支援活動の推進が求められる中、適した方法を模索している段階である。このいわゆる自賄方式でより顕著になるのが、設営負担である。エアータントは本体のみで100kg前後の重量がある。これを所定の場所まで徒手もしくはカーゴや台車で搬送することはかなりの負担となる。地面が土や砂利等であれば尚更で、これを少人数で複数張分担当するのは怪我や体調不良にもつながりかねない。新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策下ではこれが更に増加する。



ソロテントは15張で計30kg前後

ソロテントは参加隊員分の設営が必要となるが、1張分で2kg前後と軽量の製品がほとんどであり、エアテント1張分の人数に相当する5人分のソロテントでも1人での搬送が容易である。また収納時はコンパクトになるため収納場所を圧迫することはない。軽量であるため簡単に場所を移動することができ、組立場所と宿営場所が異なっても問題はない。組立について慣れは必要だが、この点はエアテントも同様であり、1人且つ短時間で設営できるソロテントの方が負担は少ないと考える。

## (2) ソロテント宿営における課題

ソロテントによる宿営にも課題がいくつか挙げられる。

### ア ソロテントの新規購入

今まで所有していなかったものであるため、新規に購入する必要がある。

### イ 天候の影響

雨濡れを防ぐシート（レインフライ）があるため雨が直接内部に浸入することは防げるが、水たまりがテント下にできた場合、濡れた地面に体重等で圧を長時間かけると浸透してしまう可能性がある。また外気の影響を受けやすいため、厳冬期の居住性が課題となる。

### ウ テントの固定方法

地面が土であれば付属のペグを打ち込むことにより固定ができるが、アスファルト等ペグが打ち込めない場所での固定方法を検討する必要がある。

以上が宿営活動時の長野県実行委員会モデルの柱となる5つの課題と、ソロテント宿営のメリット、考えられる課題となる。

これらはあくまで机上での推察であったため、関東ブロック合同訓練で実際にソロテントを使用した宿営を行う予定で計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿営を中止せざるを得ない状況となり、関東ブロック合同訓練中での検証は断念した。

感染状況が落ち着いた令和3年10月25日に長野県内消防本部を対象に展示を行ったところ、実際に宿営してみたいとの声が多数寄せられたため、12月中旬から年を跨いだ令和4年1月中旬にかけて、県内3消防本部にご協力いただき、実際に宿営を行っての実証試験を行うことができた。



長野県実行委員会モデルでの宿営予定会場であった「上田 道と川の駅 おとぎの里」周辺



実際に東日本大震災においてソロテントで宿営を行っていたトルコ隊の様子



## 第4 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練及び実証試験

### 1 目的

今後の緊急消防援助隊の受援又は応援活動において、長野県隊が協力し円滑に活動するために実施するもの。

- (1) 緊急消防援助隊派遣時の宿営活動における感染対策や女性消防吏員の派遣等における課題について、長野県実行委員会モデルを提案し宿営環境の改善を図る。
- (2) 県内相互応援及び緊急消防援助隊派遣時の円滑な連携と安全管理の徹底を図るため、長野県内消防本部に配備された特殊車両等の特徴を把握する。
- (3) 災害時の捜索救助において災害救助犬の活動が増加していることから、災害救助犬の特性や連携要領について理解する。

### 2 日時

令和3年10月25日(月) 13時15分～15時45分

### 3 場所

上田 道と川の駅 おとぎの里一帯

### 4 協力機関

- (1) 上田 道と川の駅 おとぎの里 (会場協力)
- (2) 株式会社 ヘリテイジ (ソロテント借用)
- (3) 特定非営利活動法人 救助犬訓練士協会 (3名・2頭)
- (4) 長野市消防局 (消防庁無償使用車両：津波・大規模風水害対策車)
- (5) 松本広域消防局 (消防庁無償使用車両：重機及び重機搬送車)
- (6) 上田地域広域連合消防本部 (会場運営)
- (7) 佐久広域連合消防本部 (宿営モデル展示)

### 5 参加者

- |                |     |         |
|----------------|-----|---------|
| (1) 上田市危機管理防災課 | 2名  |         |
| (2) 県内消防本部(局)  | 93名 |         |
| (3) 総務省消防庁     | 2名  |         |
| (4) 長野県庁       | 4名  | 合計 101名 |

### 6 展示・訓練内容

- (1) 宿営活動時の長野県実行委員会モデル (ソロテントを使用した宿営) の展示
- (2) 県内特殊車両等の訓練 (重機及び重機搬送車、津波・大規模風水害対策車)
- (3) 災害救助犬の訓練

### 会場レイアウト



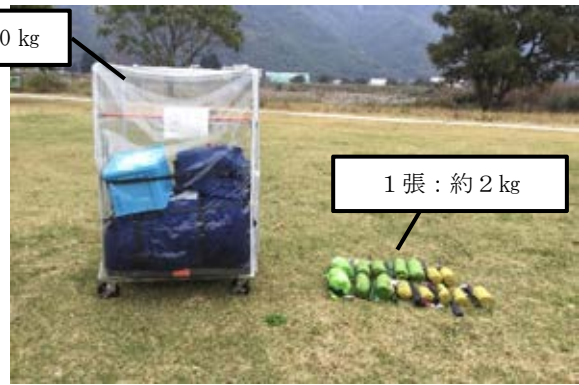
### 宿営活動時の長野県実行委員会モデル（ソロテントを使用した宿営）の展示

#### 展示レイアウト及び設定案



1本部、15名での宿営を想定して、ソロテント15張を設営。ソロテントと比較するため、4m×5mのエアータント1張を設営。(ソーシャルディスタンス確保のため1張5名での宿営を想定。実際には3張必要。)

このほか、隊の周知事項等を共有するための情報共有エリア、出入口にはデコンタミネーションエリア、クイックテント等による給食エリア・打ち合わせエリアを設定。



エアertent 1張とソロtent 15張の収納状況。

(新型コロナウイルス感染症対策として1張5名とした場合、エアertentはあと2張必要)



設営人数・時間：4名・1張40分  
(カーゴからの搬送～寝具等の設定まで)



設営人数・時間：4名・15張40分  
(箱からの取出し～寝具等の設定まで)



エアertentは10名前後宿営可能であるが、感染症防止対策として隊員間の距離を保つため5名での宿営。テント内にもアクリル板の設置やサーキュレーターが望ましい。



テント内には銀マット、エアマット、シュラフを設定。必要最低限の荷物も収容可能。



デコンタミネーションエリアには、靴の汚れを落とす場所や手洗い場のほか、体温計や消毒スプレーを設置。



給食エリアのテーブルには飛沫防止対策の亚克力板を設置。

県内特殊車両等の訓練（津波・大規模風水害対策車、重機）





災害救助犬の訓練

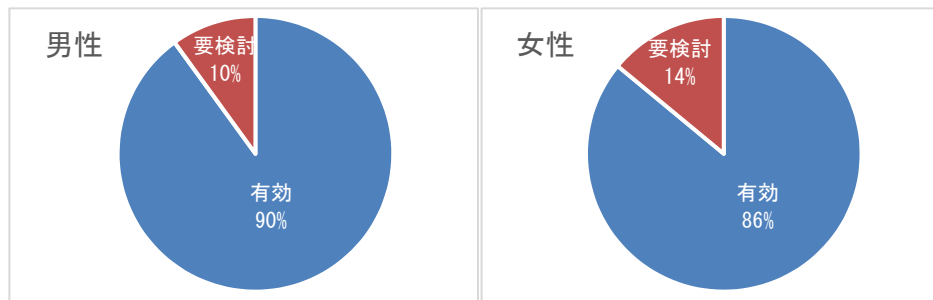


## 7 参加者からの評価結果 回答者 79 名（男性 72 名・女性 7 名）

長野県実行委員会モデルについて、下記の 7 項目を「有効性を感じる」または「諸課題の検討が必要」でアンケート評価を実施。各項目で 7 割～8 割の職員から有効性を感じると回答があった。

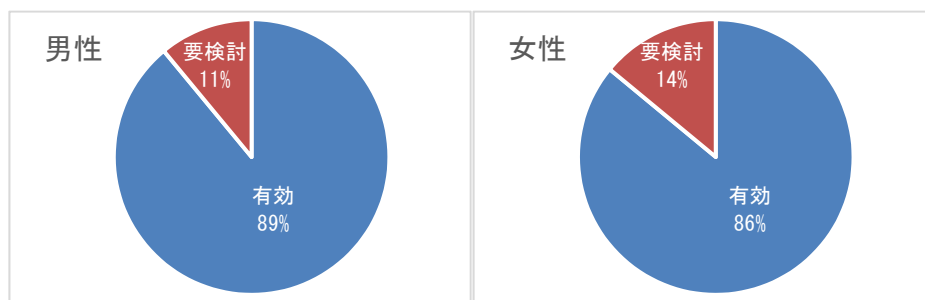
女性からは「これなら自分も緊援隊として派遣されても問題ないと思う」「設定がし易くプライバシーも守られる」といった意見が挙がった。

### (1) 新型コロナウイルス感染症及びその他の感染症への対策



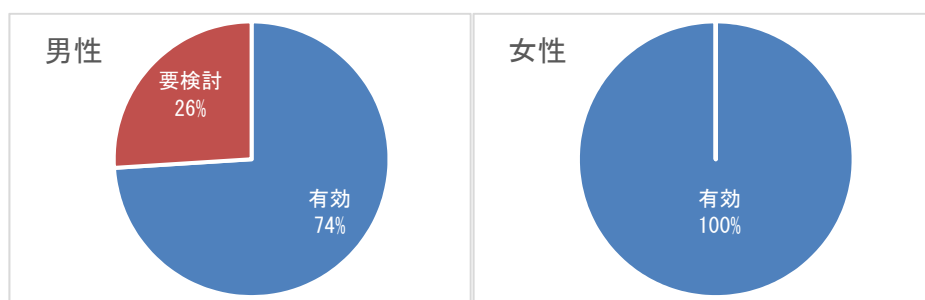
- ・屋外だけではなく、屋内でも使用出来れば感染対策につながる。

### (2) 個人プライバシーの確保、干渉されない空間での休養・仮眠が可能となり、隊員の疲労回復の向上に繋がるか

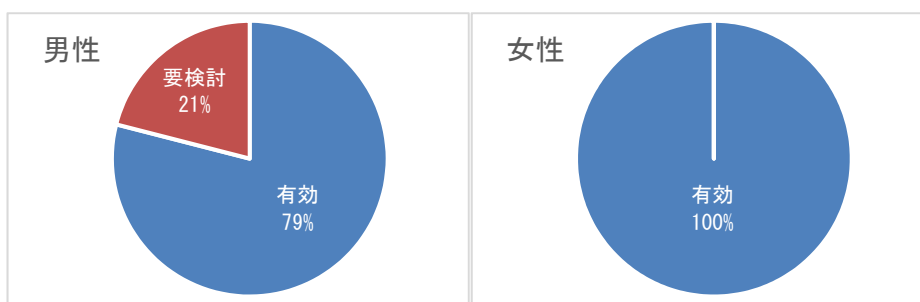


- ・プライバシーの点からは非常に良いと感じた。
- ・ソロテントのためどのような連絡体制をとるか。個人の体調変化に気付きにくい。

### (3) 女性消防吏員が安心して活動・活躍できる緊急消防援助隊の体制整備

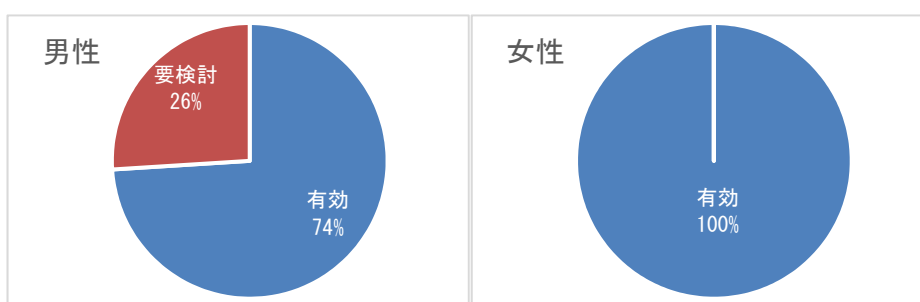


(4) 宿営設備のコスト削減が図られるか(テント本体+付属品等も含めたコスト比較)



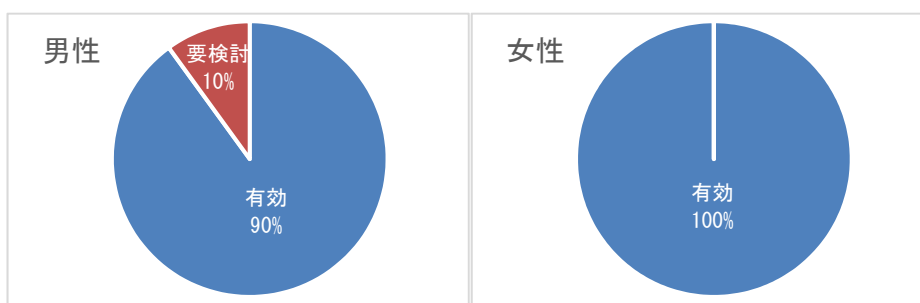
- ・寝具をいかに快適にするか課題。床に敷くマットを良いものにする。

(5) 収納場所、宿営面積のコンパクト化により、スペースの有効活用に繋がるか



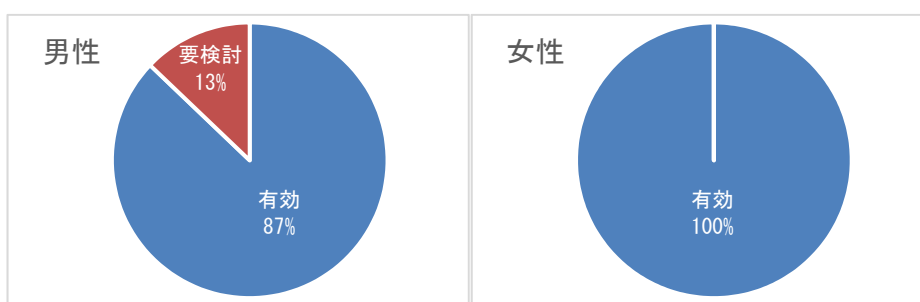
- ・省スペースの面では有効と感じた。
- ・エアータントはミーティングに必要では。

(6) テントの重量軽減、設営・撤収時間の短縮が図られ、後方支援隊の負担軽減になるか



- ・後方支援要員が2～3名のため、1張3分程度であれば有効と感じた。

(7) 自消防本部（または長野県大隊）でのソロテントによる宿営について



- ・長野県大隊として出動するので、県内消防本部で揃えた方が良いと思う。

## 8 課題と対策

展示参加者へのアンケート調査では、「厳冬期の防寒対策」「テント内の狭さ」「隊員の識別(テントの識別)」「体調変化等の異変の察知」「ブリーフィングエリア・情報共有の不安」等、様々な課題が挙げられました。

課題	対策
厳冬期の防寒対策	シュラフやマットの性能等を考慮し、厳冬期でも快適に就寝できる装備を用意することのほか、体育館の中等屋根付きの場所であれば防寒対策にもなります。
テント内の狭さ	1人用では個人荷物を収納するスペースが十分でない可能性があります。2人用なら就寝する場所と荷物を置く場所を両方確保できます。 あるいは荷物をまとめて収納できる別の場所(エアータント、車両等)の活用を検討します。
隊員の識別(テントの識別)	テントの色を変えたり、隊名等を記載したラベル、シール等の目印の掲示で対応できます。
体調変化等の異変の察知	定期的な確認による体調、健康状態の把握。
テントの生地に対する不安	展示で使用したテントは山岳用なので性能は十分ですが、軽量化のために生地が薄くなっており、破損の不安がありますので、補修用品の用意や緊援隊の野営に適したモデルを検討する等の対応が考えられます。
ブリーフィングエリア・情報共有の不安	支援車、給食エリア等でブリーフィングは実施できます。
地盤面の種別による固定方法	アスファルト等ペグで固定できない場合には、充水した消防ホースを錘替わりに使用できます。
新規購入の予算化	国や都道府県主導による導入支援を検討していただきたい。

アンケートの結果、好意的な意見が多く寄せられた一方、課題となる貴重な意見もいただいたことから、実際に宿営してみでの判断も必要と考え、長野県内消防本部の協力を得て、令和3年12月から令和4年1月にかけて実証試験を行う運びとなった。



## 9 ソロテント宿営実証試験

### (1) 実施方法

ア 県内5消防本部にて1泊の宿営訓練を計4回実施し、訓練事務局員を含め延べ58名（男性48名・女性10名）参加予定であったが、令和4年1月中旬より新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、長野県内の感染警戒レベルが引き上げられたことにより中止を余儀なくされる訓練もあり、2回の開催（3本部、延べ29名）となった。

イ エアーテントを含めた従来の宿営で必要となる設備も設定し、応援時の宿営状況を再現。エアーテントとソロテントの居住性等について比較する。

しかし、実施予定日に大雪警報が発令される等天候が悪化したため、エアーテントの設定は2回の訓練の内1回のみとした。

ウ 令和3年10月25日に行った、「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練」のアンケート結果を基に検証課題を抽出し、実際に宿営を行っての課題に対する有効性を判断する。

エ 様々な条件下で環境測定を行い、適した個人装備、寝具等の検討をする。

### (2) 環境測定結果

外気温とテント内温度の比較を行い、外気温がテント内に及ぼす影響やテントサイズによる温度差の有無を調査。調査に用いたソロテントは同一モデルのサイズ違い。結果は下記表（平均値）のとおり。

第1回 A・B消防本部（合同） 令和3年12月18日 天候：晴

時 間	外気温(°C)	風速(m/s)	屋外テント内温度(°C)			車庫内	
			サイズ1	サイズ2	サイズ3	車庫内温度(°C)	テント内温度(°C) サイズ1
22:00	-6.9	1.2	-4	-4	-4	-2	3
0:00	-7.7	1.8	-2	0	-6	-2	2
2:00	-8.1	0.7	-4	1	-8	-3	2
4:00	-9.1	0.5	-2	0	-4	-4	1
6:00	-9.4	0.2	-2	0	-4	-5	0

第2回 C消防本部 令和4年1月12日 天候：大雪

時 間	外気温(°C)	風速(m/s)	屋外テント内温度(°C)	
			サイズ1	サイズ4
22:00	-1.2	4.8	2	2
0:00	-2.3	0.7	2	2
2:00	-4.3	0.9	1	1
4:00	-5	1.2	1	0
6:00	-6	0.8	1	0

※テントサイズ(W×D×H)(cm)

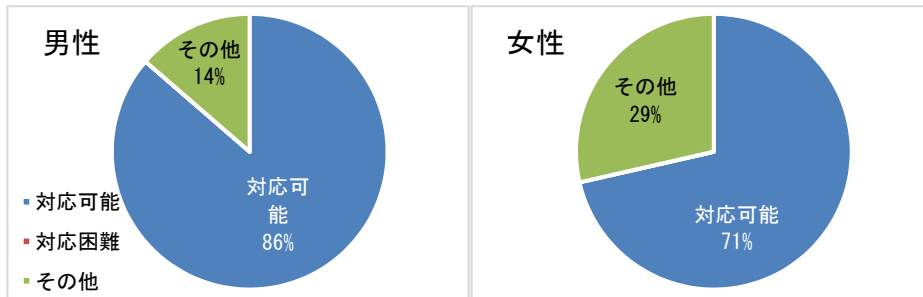
サイズ1:210×100×105 サイズ2:200×75×95 サイズ3:210×130×105 サイズ4:203×93×100

### (3) 実証試験アンケート結果

実証試験では、先に行った「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練」のアンケート結果を基に、新たに12項目の課題についての評価と、使用した

シュラフや個人装備等について調査した。

ア 厳冬期の対応（シュラフで対応可能か）



- ・シュラフの性能を考慮すれば十分対応可能である。
- ・足先が冷えるため、カイロ等で温める必要がある。
- ・エアーマットや銀マットで断熱すれば良い。エアーマットの空気は冷気で萎むので空気量や空気を入れる場所に注意が必要である。

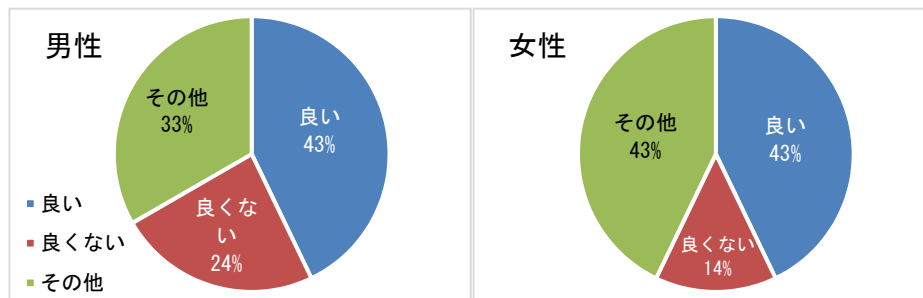
※使用シュラフ（対応可能と回答）

- ・使用可能温度-13℃ ・使用可能温度-11℃ ・使用可能温度-6.7℃
- ・適正温度-15℃（総務省消防庁貸与品）

※個人装備（主な服装）

- ・活動服（通常の作業着） ・防寒衣（ダウンジャケット等） ・機能性インナー
- ・フリースジャケット ・カイロ（特に足先）

イ 寝心地の良さ

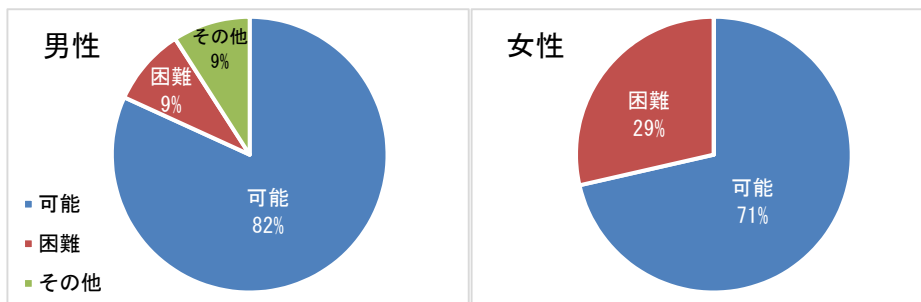


- ・エアーマットや銀マットを敷けば寝心地に問題ない。冷気は感じない。
- ・テントのサイズによっては圧迫感が気になる。
- ・ソロテント、エアータント（簡易ベッド）の両方で寝てみたが、正直ソロテントの方が寝やすかった。

※使用エアーマット

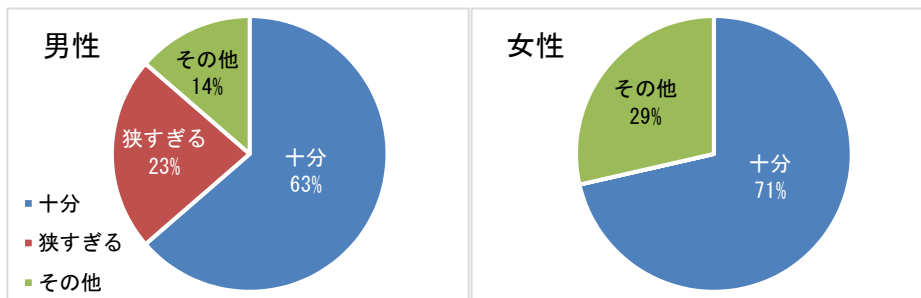
- ・5～8 cm 厚
- ・（良くないと回答）暖かい室内等でエアーマットを膨らませ、屋外のテント内に持ち込んだことにより、エアーマットが寒さで萎み、冷気を遮ることができなかった。

ウ 疲労回復（気候は考慮せずに）



- ・プライベートな空間ができるため、精神的に非常に楽である。
- ・テントサイズによっては圧迫感があり、不安を感じ眠れない。
- ・今回は現場活動もなく1泊のみで有効性を感じたが、3日間の宿営となった場合がどうなるか心配な面もある。

エ 個人資機材の保管スペース

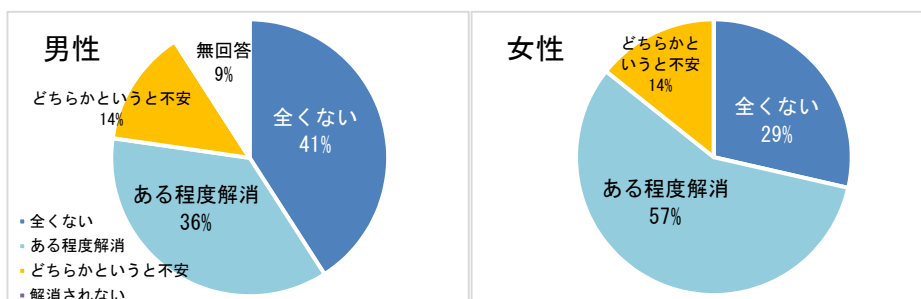


- ・テントサイズに左右されるが、2人用を使用すればスペースは十分である。
- ・1人用だと荷物を置くスペースが確保できない。

※使用テントサイズ

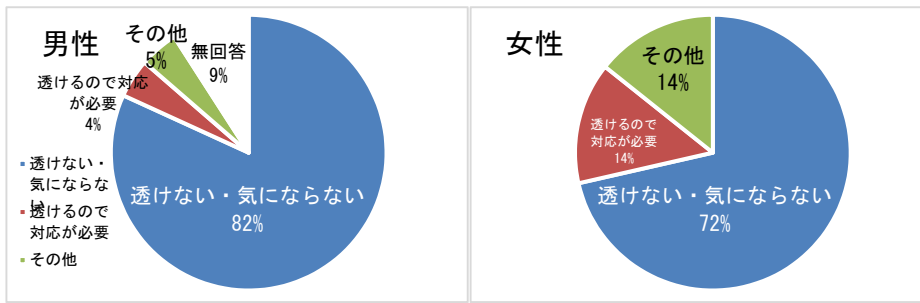
- ・2人用（W×D×H）（cm）：210×130×115 もしくは 210×100×105
- ・1人用（W×D×H）（cm）：200×75×95

オ 着替え・就寝に対する不安



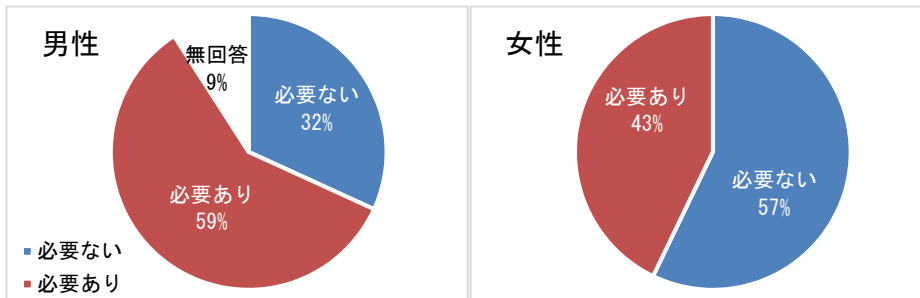
- ・寝ることに不安は感じないが、テントが低いため着替えるのが難しい。
- ・テントの生地が薄いので着替えは多少不安を感じる。

カ テントが透けてしまう恐れ



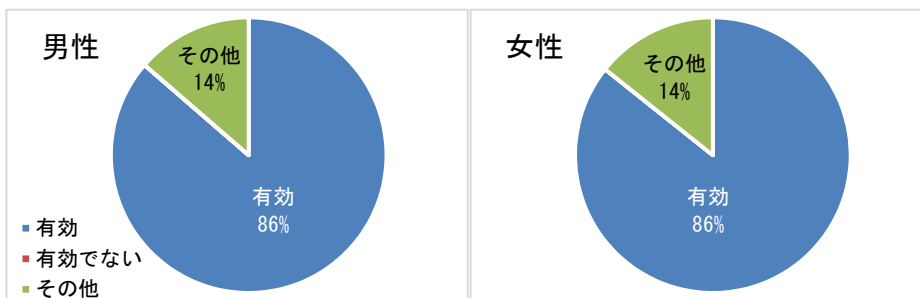
- ・テント内の明かりの向きや位置を調整すれば、思ったより透けない。明かりをつけなければ全く透けなかった。
- ・明かりをつけるとぼんやりとだがシルエットがわかるため、タオル等で覆って遮断する等対応が必要か。

キ 男女のエリア分けの必要性



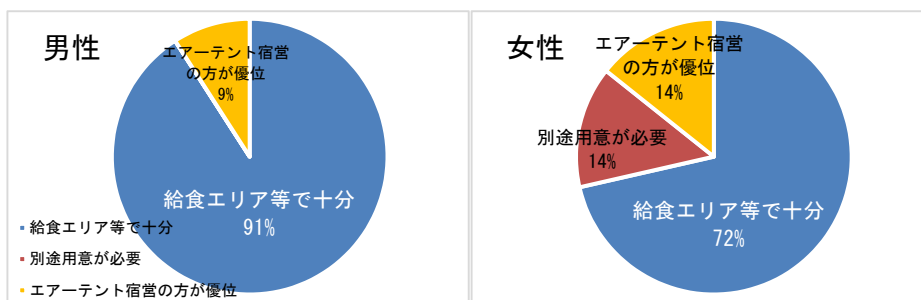
- ・就寝中の音（いびき、咳払い等）を考慮すると、男女分けした方が良い。
- ・本部単位で宿営し、その中で男女がわかれば良い。

ク アスファルトでの固定方法（車両とロープを使用した固定を実施）



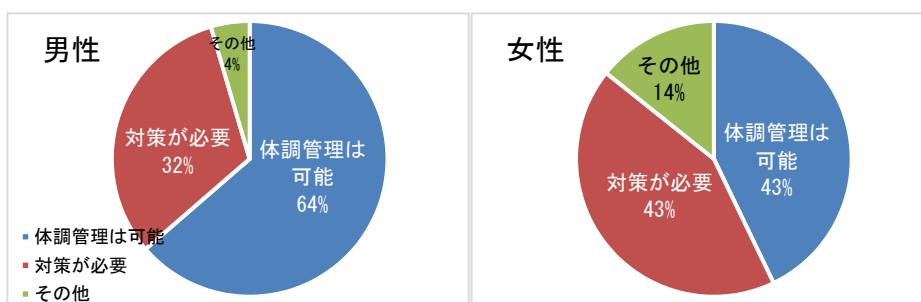
- ・環境にあわせて持っている資機材で対応できそう。
- ・雪、石、木等で対応可能。
- ・タグラインに足が引っ掛かってしまうので注意が必要。

ケ ミーティングを行う場所の確保



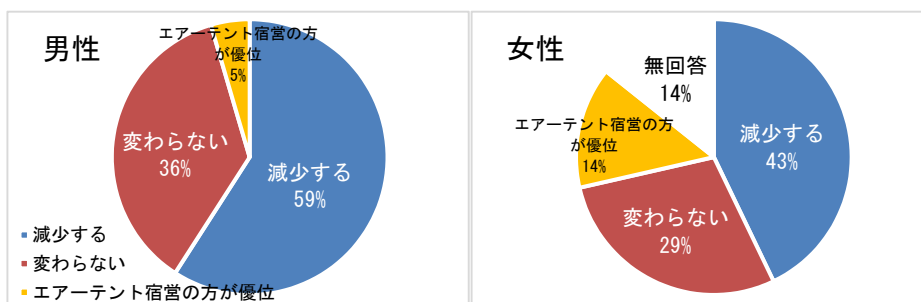
- ・給食エリア等でミーティングが行えるので、別途設ける必要はない。

コ 隊員の体調管理・容態管理



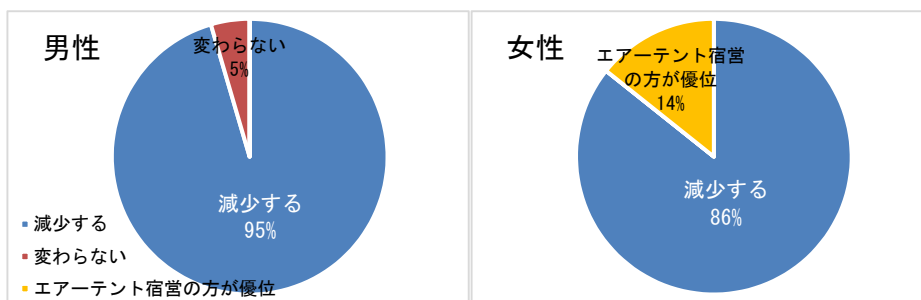
- ・トランシーバの活用、緊急連絡先の共有等、連絡体制を確保する必要がある。
- ・バディでの協力体制で、お互いをチェックしあえば良い。
- ・寒さや不測の事態に備えて、避難場所（エアertent等の別室）の確保が必要。

サ 必要面積は減少するか



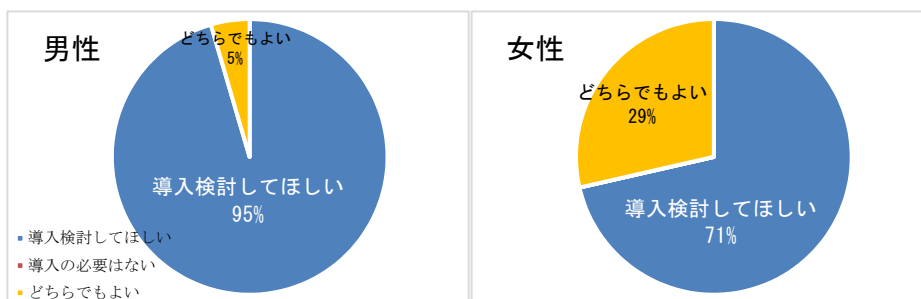
- ・設定の方法によるが少なからず減少するように思う。設定の自由度は高い。
- ・ソロテントに併せてエアertentも設定してしまえば、逆に増加する。

シ 設営負担は減少するか



- ・数は多くても設定は格段に楽であった。
- ・多少の訓練は必要だが、設定は簡単で軽量なのが良い。

ス ソロtent宿営の評価（導入検討の是非）



- ・宿営の選択肢の1つとして導入検討してほしい。
- ・プライベートな空間を確保できるのは精神的に楽である。体育館等屋内でも活用できるのではないかな。

(4) 実証試験を踏まえた新たな課題

課題	対策
寒さ対策（継続して） 夏の暑さ対策 雨天・強風時の対応	様々な環境での検証が必要
連絡体制	トランシーバの活用 緊急連絡先の共有（隊長等） テントへ大きく名札等の貼付、識別
人員交代時の対応 テントの状態（強度、浸水状況等） 内部消毒方法	複数回の検証が必要
連泊時の精神的、身体的な負担が未知数	連泊での検証が必要

(5) 検証結果を踏まえて

展示、実証試験でのアンケート結果を踏まえ、ソロテントを使用した宿営に適した装備等を考察した。

ア ソロテント

サイズは個人装備を置くため一般的な2人用（おおよそ200×100×105以上）が適している。冬期対応テントの使用も考慮する。

テントの色分けや差し込み式の名札等で使用者の識別を行う。

イ シュラフ

厳冬期であれば氷点下に対応しているシュラフが必要。対応可能温度は表記方法がメーカーにより異なる。表記されている温度（限界使用温度、快適使用温度など）の意味を理解すること。ソロテントに限らず、エアータントや屋内で宿営する場合でも就寝時は暖房が使用出来ない場面も想定されるため、同様に考える必要がある。

ウ 居住

最低でも銀マットとエアーマット（厚さ5cm以上）が必要。

照明は必ずしも必要ではないが、点ける際は透けないために向きに注意が必要。

エ 服装

冬期は機能性インナーやメリノウール等保温性や発熱性に優れた素材の衣類を着用することが望ましい。また、空気層を効果的に作ることができる防寒衣も有効である。

カイロや湯たんぽで足先を温める。

オ 男女エリア分け

男女エリア分けは各本部単位等最小限で行い、隊としての活動、本部としての活動から切り離されることが無いよう考慮する。

カ ミーティングエリアの確保

ミーティングは給食エリアや車両等を有効活用して行い、別途設ける必要はない。

キ 連絡方法

トランシーバや無線を活用し、また、緊急連絡先を共有することで連絡体制を確立する。

小隊等でバディを組み、相互に体調管理を行う。

ク 固定方法

アスファルトでの固定は消防で保有している資機材（ロープ、ホース、ポリタンク等）を使用して固定することが可能。

## 実証試験の様子



比較のためにエアーテントも設定



ソロテント設定の様子



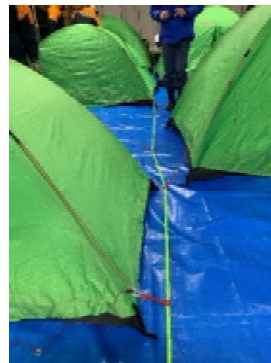
屋外での設定の様子



テント識別のためにタグを装着



12.5m×5mに16張のソロテントを配置



車両の車軸にロープを結着し、テント固定に利用



雪を利用したテントの固定



2人用の内部  
銀マットとエアーマットを敷き、シュラフ、  
300と400のバッグを置いた



## 第5 訓練会場・資機材等協力団体

上田 道と川の駅 おとぎの里	訓練会場（メイン）
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 当初計画において、同施設一帯は合同訓練のメイン会場予定地であり、部隊運用訓練会場として2日間5種目（トンネル内多重衝突事故救助訓練、土砂災害救助訓練、孤立集落救助火災訓練、山林火災救助訓練、多重衝突事故救助訓練）の実施、後方支援訓練（県内消防相互応援隊：中信）の実施、ヘリポートにおける航空機の発着等を予定していた。一帯には国道や一級河川を擁し、エリア毎に管理者が異なる複雑な施設だが、おとぎの里が中心となり一帯を合同訓練のために無償で提供していただいた。</li><li>○ 実動訓練中止後においても、令和3年10月25日に実施した『宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練』のため、施設一帯の敷地使用や参加者への昼食提供など多方面で協力をいただいた。</li></ul> <div data-bbox="209 763 823 1137"></div> <div data-bbox="847 763 1414 1137"></div>	

特定非営利活動法人 救助犬訓練士協会（RDТА）	災害救助犬
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 特定非営利活動法人 救助犬訓練士協会（神奈川県藤沢市）では、長野県諏訪郡富士見町に『RDТА八ヶ岳国際救助犬育成センター』を置いて、国内外で活動する救助犬の訓練を実施していたことが縁となり、合同訓練への参加協力を依頼していた。</li><li>○ 当初計画していた実動訓練では、メイン会場での「土砂災害救助訓練」「トンネル内多重衝突事故救助訓練」、アサマ2000パークでの「噴火災害救助訓練」において、救助犬による要救助者の捜索活動を予定していた。また、実動訓練中止後においては、令和3年10月25日に道と川の駅 おとぎの里で実施した『宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練』で、救助犬による捜索活動のデモンストレーションを披露した。</li></ul> <div data-bbox="178 1693 616 2018"></div> <div data-bbox="770 1789 892 1912"></div> <div data-bbox="643 1955 973 2018"><p><b>RDТА</b> 救助犬訓練士協会 Rescue Dog Trainers' Association</p></div> <div data-bbox="999 1693 1445 2018"></div>	

## ソフトバンク株式会社

## 訓練用資機材

- 同社では、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）活動の一環として災害対策や復興支援に関する取組を行っており、関東ブロック合同訓練では運営向け通信機器無償貸与（タブレット端末（iPad）、携帯電話）の実績がある。
- 当初計画では、情報共有訓練でタブレット等の活用を予定していた。実動訓練中止後も図上訓練でタブレット等を活用した被災地本部、指揮支援隊等との情報共有等を行った。



## アイコム株式会社

## 訓練用資機材

- 同社は業務用無線機器を製造・販売しており、消防関係機関でも馴染みのある企業のひとつ。関東ブロック合同訓練では運営用にIP無線機を無償貸与した実績がある。
- 当初計画では、広域化している各訓練会場で利用可能な通信ツールとしてIP無線機の使用を予定していた。実動訓練中止後も『Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練』で各会場担当者等が携行し、活用した。



## 株式会社ヘリテッジ

## 訓練用資機材

- 長野県内に本社を置き、山岳用テントやレスキュー製品を製造・販売しており、消防機関でも馴染みのある企業のひとつ。
- 当初計画では、感染防止対策やプライバシー確保の観点から、県内消防相互応援隊の一部がメイン会場でソロテントを用いて宿営する『長野県実行委員会モデル』の提案を予定していた。実動訓練中止後は宿営モデルの展示に企画を変更し、展示用ソロテントの無償貸与を受けた。

